

一着に這いこなる
大切な時問も
胸に刻もう
生きとし生ける者の
定めに抗い
一秒の生を
全身全霊で
送れしめる



令和六年度 第三十五回 豊の国ねりんピック
シルバーふれあい短歌・俳句・川柳展
【作品集】

令和6年度 第35回豊の国ねんりんピック

シルバーふれあい短歌・俳句・川柳展 【作品集】 (通巻35号)

目 次

短歌の部

短歌全体評 大分県歌人クラブ 会長 伊勢 方信	1
伊勢 方信 選	2
山本和可子 選	4
太田 宅美 選	6
短歌作品	8
企画ページ「山本 和可子」「太田 宅美」	34
大分県歌人クラブの紹介	36

俳句の部

俳句全体評 大分県俳句連盟 会長 吉原 白天	37
吉原 白天 選	38
阿部 王一 選	40
中尾 豊子 選	42
俳句作品	44
企画ページ「阿部 王一」	78
大分県俳句連盟の紹介	79

川柳の部

川柳全体評 大分県番傘川柳連合会 幹事長 高木 豊柳	81
飯干美恵子 選	82
田中 和彦 選	84
高木 豊柳 選	86
川柳作品	88
企画ページ「高木 豊柳」	108
大分県番傘川柳連合会の紹介	109

作品応募状況	111
応募者数(男女別・市町村別・年齢階層別)	112
次回応募はがき	巻末

表紙／「マスカット」河野 龍児

【運営協力】

大分県歌人クラブ 大分県俳句連盟 大分県番傘川柳連合会

※最後のページに、次回の応募用のがきがあります。
ミシン目に沿って切り離してご利用ください。

※募集期間は、来年の一月一日から一月三十一日までです。

短歌の部

審査協力 大分県歌人クラブ

	応募者数	作品数
	(人)	(点)
短歌	297	297

短歌全体評

皆さんの作品を読みながら、私の座右の書、上田三四二の『短歌一生』にある

「短歌が青春の文学であることを私は首肯しゅこんするが、よりいっそう、老年の文学であることを確信する。」を思い出していました。

戦後の復興を成し遂げ、駆け足で移りゆく時代を見つめて来た世代の反戦の歌、高齢社会を物ともせずに向き生きる歌、その他、今という時代を冷静にとらえた歌などの、伝える力の強さに感動しています。

大分県歌人クラブ

会長 伊勢 方信

伊勢 方信 選

特 選

海亀の来る砂浜の清掃に今年も妻とプラごみ拾う

糸永 光（国東市）

〈評〉県内で海亀の来る砂浜は、四浦半島の高浜海水浴場をはじめ、杵築市や

国東市の海岸など。初夏の海亀の産卵の為に、行う環境整備は、砂浜の自然保護活動でもある。無償の奉仕活動が続ける作者の生き方に学びたい。

入選

老夫婦しずかに住める垣にそいザクロの花が今年も咲ける

安藤 淑子（大分市）

〈評〉

初夏にひらくザクロの深紅色の花には、落ち着いた雰囲気がある。今年の花から、老夫婦の穏やかな生活に思いを馳せている。

入選

ヨシの穂のゆるる休み田見下ろして馬頭観音眼を剥きて建つ

伊藤 美佐子（杵築市）

〈評〉

仏道を生きる衆生（しゅじょう命あるもの）を救う馬頭観世音は、農耕馬の守り神でもある。休耕田を減らせない農政を叱責しているようだ。

入選

訃報聞き夜道の海岸線行くに波を照らせる月がつき添う

加藤 智子（大分市）

〈評〉

よほど身に近い人か、親交の深い人の訃報であろう。月が、作者の思いに寄り添うととらえることで、主観を抑え得ている。

山本和可子 選

特 選

面会にどなたですかと問う妻に良人ですよと手を握りしむ

村上 伸男（別府市）

〔評〕施設の妻の丁寧な問いかけに、二人が夫婦であることは忘れても自分を懐かしい人だと感じてくれていることが分かる夫は、全身全霊で「良人^{おつと}ですよ」と語りかけ手を握りしめる。究極の夫婦愛に心を打たれる作品である。

入選

夜なべする母が着てゐし綿入れを今宵羽織りて御節を作る

久下 つま子（別府市）

〈評〉寒い夜、綿入れを着ての夜なべで家計を扶けた母。その形身に温かくくるまれて作るお節料理には母の味が染み込んでいることだろう。

入選

けれどもと言いかけ黙りし人の眼にあとの言葉を推して問わざり

市川 松代（佐伯市）

〈評〉けれども…と言いさした眼の表情にその心の奥を見通している。あとの言葉は推して知るべし。微妙な心理を巧みに詠った秀歌。

入選

あと十年楽しく生きようと励まして連れ立ち歩く川辺の小道

桜井 勝己（竹田市）

〈評〉ゆく川の流れに沿う小道は人生そのもの。老境に温度差があり、明るい作者と少しネガティブな連合いの会話に味のある優れた作品。

太田 宅美 選

特 選

補聴器を嫌がらないで
お母さん私はもつと会話を
したい

手嶋 朱美（国東市）

〔評〕 昨年亡くなった従姉を思い出した作品で、祖母の時代から雑貨店を継いでいたが、近年閉店後、難聴が進み、補聴器の小さな雑音が怖く生耳暮しをしていた。寂しい日々にならぎがあったのだろう。私には痛い歌である。

入選

紅葉こうようの用作公園水鏡の池の舞台で夜神楽を舞う

久住 農人（竹田市）

〔評〕この場面に接したことはないが貴重、かつ自身鼓舞を感じる歌。以前、三重町の道の駅で孫と一緒に楽しんだ日を回想しています。

入選

憂きことの多き世なれど命欲し愛しき人を見送るまでは

中釜 淑子（大分市）

〔評〕上の句はやゝ大柄だが、色々ありすぎて読者に委ねる。深い人生感かんと自身の健康不安を剔えぐつて、共感させる手法である。

入選

しっかりとにぎった小銭温もりてお年玉から募金する孫

西田 三津子（佐伯市）

〔評〕まだ幼いからお年玉もコインであろう。周りの所作を見習って募金箱に入れる音も想像する。そのうちお金の価値も覚えるだろう。

初なりのミニトマトなり色もよくもぎるよろこび根元に水を

渡辺 睦子 (日出町)

小野川の岸辺に着きし舟にのり漕ぎ出す君をしばし見送る

美智子 (日田市)

その昔弊衣破帽で闊歩せし丘に曾孫を千鳥にて追う

阿部 孝道 (由布市)

軽すぎて湯舟に浮いてしまうのと友は嘆きぬ沈まぬ体

西村 敦子 (国東市)

幼き日住みたる故郷にたづね来ぬかすかな記憶湧水の井戸

日名子 隆 (大分市)

遠くへと走り出す船棧橋の上から見える瀬戸内海

原田 洋治郎 (豊後大野市)

真新しどこへいこうかサンダルで君と僕とのハーモニーでね

辛島 恵子 (豊後高田市)

里神楽尊晒しの襷掛け大蛇退治の太刀振り翳す

神徳 和雄 (津久見市)

立ち坐り机に手を付く動作してはつと気が付く父母偲ぶ

溝部 明夫 (臼杵市)

菜園に耕運機加勢ビール来る編み物もする隣人95歳

佐藤 文人 (由布市)

二鍋に朝よりおでん作りては独居の老いらに食べてもらはむ

江田 孝子 (日田市)

餅投げに手を伸ばせども拾えざり後ろより三つ呉れし男性のあり

廣田 千代子 (佐伯市)



佳作

佳作

入選

ロケットを打つな汚すな晴空は子供が絵を描く白い画用紙

足立 岩男 (大分市)

夜なべする母が着てゐし綿入れを今宵羽織りて御節を作る

久下 つま子 (別府市)

好きだよと書かれし一枚廊下にて冗談のごと手渡しし君

江口 美千代 (大分市)

シルバーで絵を描き始め早や五年目指して進む最優秀を

央佐 充 (宇佐市)

新春に飛びたつ鶴よ羽音鳴し世界中の平安願う

嶋末 洋子 (大分市)

死後四年パンドラの箱全開にジャニーズの純^{じゅん}な心戻らず

米澤 菊恵 (佐伯市)

和紙ちぎり兼六園を妻描く夏の旅行の形見にせむと

安達 郁雄 (国東市)

ガザの街瓦礫の中を手を引かれ避難の老女哀れ映れり

田中 仰美 (別府市)

笑顔には希望と夢と未来あり戦禍の民に幸あれと祈る

舩谷 博正 (佐伯市)

ふうわりと髪をなびかせすれ違う孫のあやうき年頃となる

深田 良子 (豊後大野市)

骨折せし肋骨二本ぎしぎしと吾責める如真夜をきしめり

梅木 至子 (大分市)

追憶の窓を覗けばサボタージュせしわれ紫煙の名画座にゐる

立花 眞由美 (豊後高田市)

羨むな恨むな媚びるな欺くな亡母へのオマージュ形見の言葉

木元 俊樹 (杵築市)

ゆとりなき人生なれば我はまた夢を描きて明日へと生きむ

山本 信義 (別府市)

薄れゆく記憶の中の想い出は時間の魔法にすべてが耀う

藤野 恵美子 (別府市)

外国の客とおせちの膳囲み笑顔と笑顔のあの日懐かし

さあちゃん (大分市)

峡の津の水仙ほつほつ咲き初むる春の日差しの石段の脇

中鶴 政子 (佐伯市)

麦の葉の夜来の雨に立ち上がりしかと列なす二日の朝なり

油布 晃 (竹田市)

面会日施設入所の母訪ぬ少し瘦せたが変わらぬ笑顔

深田 博文 (竹田市)

様様な仕事に就きて精を出す人こそ宝過疎に負くるな

中田 喜代子 (佐伯市)

テレビより流れる昭和の流り唄なつかしかな箸とめて聞く

久保 スマ子 (宇佐市)

腰かばひそこそこで終ゆ墓掃除よしとし立てばうらうら木もれ陽

小野 洋子 (佐伯市)

冬の朝手足を伸ばし起き上り新たな今日にチャレンジをする

高橋 登代子 (佐伯市)

紅葉の用作公園水鏡の池の舞台で夜神楽を舞う

久住農人 (竹田市)



月いちのお出掛けランチ続けたし後期高齢竹馬の友と

迫村 裕子

(大分市)

明日くるとわからぬ命日を悔いなく生きよう九十過ぎし

坂本 美津子

(宇佐市)

この娑婆の空気に触れて幼な子はビクンビクンと馴染みはじむる

狩生 一生

(佐伯市)

街並が瓦礫と化するこの戦終われぬものか新年の来る

清杉 五枝

(佐伯市)

息夫婦贈りてくれし花柄のシルバーカーに背筋を伸ばす

遠入 和子

(中津市)

若者に専業主婦がいなくなり人口減少いよいよ進む

浦田 照

(大分市)

初盆を終りし我身仏壇も寂しさ共に秋風つれて

古城 千佐子

(国東市)

翔平に総太に昌磨若き人同世代に生きる幸せ

すみれ

(大分市)

寄せる波誰を笑うか絶え間なく夢を追いかけて駆けずり回る

後藤 祐二

(大分市)

聴力の少し弱れる我が耳に心地良きかな春の水音

入田 良子

(別府市)

老いたれど想像力と好奇心減らしたくない私の宝

大下 昭子

(大分市)

生かされて八十五歳となる吾は短歌に勤しみ心を癒す

佐藤 宗一

(豊後大野市)



昭和初期遠くなりけり気がつけばいつの間にか年老いており

山崎 妙子 (宇佐市)

家宝とす「私の健康生活」遺稿となった父の生き様

莊田 泰代 (臼杵市)

廃屋は昭和の生活偲ばせて庭の石楠花蒼ふくらむ

立花 和子 (日田市)

病院の消灯早し夜景の灯タワーマンション聖樹めきたる

みつ代 (津久見市)

古に神々集いし高千穂の郷に流るる薄き白雲

玉井 郁夫 (豊後大野市)

恐竜について学べる児の部屋に雑食類の足跡のあり

村口 クミコ (日出町)

唐臼の陶土を砕く音川面にひびき吹きくる風に土埃舞ふ

坂本 憲子 (日田市)

主人なき農地荒せず耕やせど休むひまなくはゆる雑草

河野 光子 (杵築市)

絶ゆるなく揺らぐ原爆の残り火に永久の平和を孫子と祈る

樋口 文子 (日田市)

白髪も笑い皺さへ我がものと生くる指標は天道の下

矢野 肇 (大分市)

私が私でなくなりしとき子等の選り抜く写真を見たき

大塚 勝正 (由布市)

「丁度よい」心に浸みる良寛のことばを唱えて独りを癒す

杉本 昭夫 (大分市)



老夫婦しずかに住める垣にそいザクロの花が今年も咲ける

安藤 淑子

(大分市)

四歳が背負ひし白木の箱軽く帰る山道からこゝろ鳴りぬ

児玉 直

(大分市)

もつと早く話せばよかつたすんなりとあなたと和解退職の日に

安藤 香奈子

(大分市)

夢でまた源氏の君に逢えるやもゆかりのドラマ始まるを待つ

柴田 祐子

(佐伯市)

冬の夜にビニールハウスの灯が膨る春の真近かと母も膨る

浜崎 千六

(国東市)



ちちははも同胞みんな越えてきた有明峠に夕陽が落ちる

速見 由樹

(佐伯市)

過疎の地区道いっぱいに落葉して風に吹かれて吾が前を行く

矢野 喜代子

(佐伯市)

日出生台に戦車の轍深々と空に轟く砲弾の音

加藤 賢二

(豊後大野市)

震災に今のわたしに出来ることあきらめないで希望を抱く

上野 眞知子

(大分市)

注連縄を親子三代縋ひゆきし年の瀬の冬日向の笑顔

後藤 明彦

(宇佐市)

高齢だからもう乗るなど言ふ勿れ今日もスカーフ靡かせて漕ぐ

本浪 純子

(宇佐市)

小さき蜘蛛精一杯に網を張り空をさまようエサを捕えん

加藤 喜久子

(津久見市)

生きるため戦禍の中を子供たち笑顔の途絶え惨状に耐う

徳丸 トシ子

(大分市)

痛^{つら}すぎる門松の朝地震くるテレビの向うはもつと痛^{つら}き

麻生 初子

(津久見市)

川に映え城址に飮す冬花火ドローン高く指組み祈る

曾^そ宮^{みや} 点^{てん}

(佐伯市)

けれどもと言いかけ黙りし人の眼にあとの言葉を推して問わざり

市川 松代

(佐伯市)

富士川の辺りで夜毎聞きていし貨物列車が橋渡る音

杉原 一恵

(佐伯市)

晩酌に春は鯨^{このしほ}友^{とも}にして充^みたされてゆく一日の労^{ろう}

小野 裕二

(臼杵市)

汗と泥技を磨きし中三は悔し涙の球場を去る

穴井 和子

(玖珠町)

ヨシの穂のゆるる休み田見下ろして馬頭観音眼を剥きて建つ

伊藤 美佐子

(杵築市)

折り目無き樋口一葉巡り来ぬ温顔暫しの留まり願ふ

安藤 ケサエ

(杵築市)

櫛の齒が欠けるごとくに旧友が星となりゆく冬銀河冴ゆ

瑠璃

(宇佐市)

節電で明日の生活^{くらし}に明るさを大和魂出番でいこう

工藤 睦子

(竹田市)

鯉^{こい}狙^めう鷺^{さぎ}奴^め追えども逃げぬとは地^じ団^{だん}駄^だふんで杖ふりまわす

穴井 幸雄

(日田市)



コスモスの花びら散りて冬近し風にゆらぐを窓辺に見おり

森 孝子

(大分市)

朽ちつつも尚実をつくるすももの木日々老いゆきし我身重ぬる

佐藤 小夜子

(由布市)

雪もよう暗き夜明けに漁に出る曾^かつてがありて今の安らぎ

佐藤 慶子

(日出町)

面会にどなたですかと問う妻に良人ですよと手を握りしむ

村上 伸男

(別府市)

夫逝きて彼岸此岸と別れても共にいるよな秋の夕暮

三又 陽子

(大分市)

極楽の余り風よと頬に受けひと時和む草刈りの間^ま

岡田 真知子

(国東市)

古稀^ゆ往きて後は喜寿まで生きてみる尚^{めい}命有れば傘寿を目指す

村上 伴一^{ともかず}

(大分市)

幼なき日弟と遊ぶ日なつかしきしょうぎの駒の山くずしの音

大神 愛子

(豊後大野市)

花鉢に小さき^{かまきり}蠅螂^{ひぐろ}の骸あり両手を合はせ祈るごとくに

小深田 藤美

(国東市)

祖母背負ひ辟難をしたる十七才能登を背負ひしやうに^り凜しよ

合谷 勝彦

(日田市)

籠り居る老は気にすな日だまりのふくら雀よゆるりして行け

合谷 明子

(日田市)

入院の準備ととのへ独り居の友は老猫を吾に托せり

田口 玲子

(大分市)





読み聞かせ声に向かってハイハイの児のキラキラとひとみかがやく 木村 説子 (国東市)

ゴボー一発一本のタスキ箱根路え坂道いどみ来期につなぐ 安田 重行 (別府市)

逝く準備余命宣告末期ガン喪主は父より兄さん頼む 木村 弘治 (国東市)

製麺機のハンドルゆつくり回す夫義母に習ひしうどんを作る 石吾 弓子 (日出町)

学習会友と学びしひとときが生きる喜び元気のひけつ 平川 ケサ子 (臼杵市)

年明けよ地震津波の能登半島テレビの画面心がふさがる 小関 みち子 (日田市)

血の色が薄黒くなる千人針百歳の軀の家宝のお守り 森下 菊男 (豊後大野市)

原尻の滝の吊り橋ゆうらゆら凍て付く飛沫白き岩肌 森下 ユミ子 (豊後大野市)

初入りの曾孫抱かんと近ずけば「ばあちゃんマスク」と孫に止めらる 小石 幸子 (日出町)

嫁ぎし日の形見となりし父の歌こもる優しさ早も七七年 日野 テル子 (由布市)

澄み渡り川面ゆらめき鮎群れて遠い記憶のふるさと思ひ 森田 さとみ (大分市)

寒中に老いは勝てずに友は逝く姿見ずとも面浮ぶなり 大塩 政道 (別府市)



おはようと声かけ残しペタル踏む風にマフラーの手を振るごとし

海亀の来る砂浜の清掃に今年も妻とプラごみ拾う

帰省した孫と背比べババより高くなつたと大はしゃぎだ

活断層のなき地に住みて能登地震の被災者思ふ命あれよと

今生の別れかと思ひ出征の父見送りし駅跡に立つ

大根の皮はきんぴら義姉つくる何やら嬉し亡母も為したり

娘の帰省待ちわび老いし我顔に少し濃いめの薄化粧する

娘らに姑縫い呉れし絆纏が箆笥より出で遠き日偲ぶ

跡継の碎きし穴に桧苗三百本を孫と植付け

補聴器を嫌がらないでお母さん私はもつと会話をしたい

浮き雲の広がる空にやわらかな光をひきて朝日射しくる

斜面行く鹿の親子にロープウェイゆつくり登り春日遮る

廣瀬 光代 (佐伯市)

糸永 光 (国東市)

吹田 満子 (佐伯市)

林 スミ子 (国東市)

林 成敏 (国東市)

三浦 保子 (国東市)

金林 政子 (国東市)

近藤 節子 (国東市)

小山田 正 (国東市)

手嶋 朱美 (国東市)

寒田 綾子 (国東市)

吉田 紫紅 (別府市)

奨励賞(女性最高齢者・一〇三歳)

※



佳作

※令和六年四月一日時点の満年齢です。

迷いつも賀状終いたためる窓辺にまつ赤な夕陽燃え入り

泥谷 貞子

(佐伯市)

耕作の放棄されぬし田の面には見るも無惨に茅生ひしげる

高野 隆子

(佐伯市)

差し出す手受けてひ孫は膝に来るママと私を見比べながら

加藤 静子

(別府市)

十余年走り続けしマイカーの今朝の廃車に春雨の降る

高村 忠

(日田市)

凍土踏みし夫への褒状見上げつつよぎるは戦禍の国の民たち

大塚 常代

(竹田市)

義父逝きて大きな傘を失ったような氣のする正月が過ぐ

山内 京子

(佐伯市)

泣き癖の我子眠らす子守歌おんぶでねむる深夜の庭先

中江 伸代

(竹田市)

岩五葉苦労年輪惚ればれと見せてあげたし人知れぬ山

三浦 千秋

(豊後大野市)

沈み行く真赤な太陽見つめつつ今日のお礼と新年の祈り

渡邊 睦子

(日出町)

入院のポストンバッグより軽い吾涙ふくんだ枕の重さ

早澤 まり子

(大分市)

賀状来るラインの年賀増えし今旧友は手書きの絵手紙賀状

臼野 青雲

(豊後高田市)

「好きです」のただひとことが言へなくて十五歳の春は片恋のまま

天田 泉美

(宇佐市)



石の上に熟柿^{じゅくし}飛び散り前の週しつかり顔して吾れに食べごろ

緑田^{あおた} しぶる (大分市)

四世代の恙なきいま何よりと語る息子にビール差し注ぐ

静香 (大分市)

蛇口より水お湯出る今の世を知らぬ祖父母の庭の風呂釜

あやか (豊後高田市)

「笑顔で」とテレビに言はるる体操の右腕上がらぬ烈日の朝

深蔵 一子 (中津市)

墓参り五つちがいの兄妹^{あにいも}いつまで続くこの幸せぞ

つわぶき花 (津久見市)

冬うらら小五の女孫と七ならべパス続く吾にそつと手札置く

矢川 安都子^{あづこ} (佐伯市)

中学で出会いて早も七十年笑い合いたる正月の電話

西崎 廣江 (大分市)

よちよちと三步運びて母の背に四季の虫・花今日も脳裏に

後藤 喜重 (由布市)

居眠りの吾^あに大丈夫かと声掛ける図書館員の氣遣いうれし

次森 久雄 (大分市)

ててぶりの小石せせらく武蔵川悠然の瀬相臉に残る

端鳥 (国東市)

楽しみは毎月集う短歌会おのおの歌光って見える

梅木 美恵子 (玖珠町)

著者の名の「中山七里」手にすたび高一踏破の飛驒川の頭^たつ

神田 隆子 (佐伯市)



一色に枯れたる里を見廻りつ鳥の声聴くボランテアの人

田中 和子 (佐伯市)

早春の畑黒々と輝きて明日の希望を耕す農夫

安藤 幸枝 (豊後高田市)

下校中敵機襲来なつ草に身体を隠したり第二次大戦

河野 龍子 (佐伯市)

憂きことの多き世なれど命欲し愛しき人を見送るまでは

中釜 淑子 (大分市)

浮びたる短歌をメモるを力なき病床生活一日は長し

釘宮 敏子 (大分市)

睡眠導入剤呑み床に入るも寝れもせず聞こえてくるは妻の寢息か

岡部 利美 (佐伯市)

雨止みに寺町通りの石敷を歩めばあぢさる薄ら陽に光る

守田 文子 (中津市)

露の身になりたる夫を慕いつつ今日のひと日を謝して過ごさむ

高橋 千賀子 (竹田市)

「シャキーン！」曲がった我腰喝入れるニヤリと笑い小一の孫

鶴原 明美 (豊後大野市)

ミニデイで出会えた友や友や友喜び合える今日の幸せ

素子 (臼杵市)

山里は静かに暮れて家々の窓の明りに安らぎを見る

高司 真理子 (佐伯市)

春告げるローバイ庭に咲きみちて寒き心に春呼びくるる

柳井 トク子 (佐伯市)

叔母逝きて空き家となりし古家にからむ葛を鎌に切りたり

江田 一美

(日田市)

庭に咲く水仙摘みて被災者の御霊に手向け安寧祈る

中島 陽子

(中津市)

軽トラけいとックの座席に何時しかもみじ葉が音なき在所に北風の吹く

廣田 キミ子

(臼杵市)



東ひんがしの闇よりほっこりみどりこ嬰兒のほっぺのような月の生まるる

阪本 雅則

(豊後高田市)

午後十時チエックインせし高齢のお客に作る塩むすび二個

伊東 一美

(別府市)

独裁者の意向に翻弄さるるごと膨らみつづく防衛費の額

佐野 弘一

(大分市)

逆縁にうちひしがれし老い友のなげき思へり秋夜目覚めて

長畑 孝典

(大分市)

母われのスカート掴みつきくる子必死の手力とほきまぼろし

井上 登志子

(竹田市)

ロボットが席まで定食運びくる世変りなれど刺身のうまし

井上 ミドリ

(大分市)

満ち込みし朝の河口に魚はねて岸影ゆらし波紋ひろがる

松本 悟

(大分市)

サンフラワー久方振りの小旅行ジェットのお湯に首までつかり

小野 峯子

(佐伯市)

躍動感あふるる竜に希望をもち心弾ませ夢追いかくる

安達 ヤスノ

(由布市)

湾光り桜島も見え着陸す半世紀前吾の初旅

大畑 邦子 (別府市)

冷雨ふる野辺の小径の冬木立枝は命の春芽はぐくむ

ていとく (杵築市)



しつかりとにぎった小銭温もりてお年玉から募金する孫

西田 三津子 (佐伯市)



訃報聞き夜道の海岸線行くに波を照らせる月がつき添う

加藤 智子 (大分市)

孫見ずの早逝夫は十七回忌張り詰め来しの過去ふりかえる

城井 俊子 (大分市)

こうせつもまさしも新司も陽水も遥か青春の夢の一ひら

小松 和子 (杵築市)



参道を車椅子押しくるる孫恋人出来しを耳もとにいう

志賀 十千美 (竹田市)

牛の背をなせて喜ぶ亡き父を今もなつかし五十年となりし

桜江 (竹田市)

七十路の命の欠片か舞ふ雪よ夕焼け雲が弥勒を抱く日

野林 鈴代 (大分市)

ひらひらと風に吹かれて舞う木の葉秋の気配を今また覚ゆ

和田 光夫 (豊後大野市)

年頭の一字は迷わず「健」と書く臥している年越し替えて過ごさむ

安永 やす子 (玖珠町)

ひよどりの鋭しき声聞く寒の朝ろうばいの黄を床の間に生く

大久保 弓子 (大分市)

奨励賞 (男性最高齢者・九十六歳) ※

捨てられてないてた君も十三才いつまで生きるか爺もがんばらニヤー

江口 俊平

(杵築市)

小雪舞う中で紅梅臘梅は春の魁競い合いおり

後藤 忠勝

(竹田市)

長生きは我が意志でなく有難く頂くものと悟りし日日よ

吉森 俊子

(中津市)

存^{ながら}えて桜見送り庭木々のみどり整う今日を生かさる

長野 美智子

(中津市)

雪予報眠れぬ夜のぬくもりに歌声喫茶「炎」^{ほのお}を憶^{おも}う

安藤 すみれ

(日田市)

七回忌過ぎたる妻を今朝もまた「おーい」と呼びて目覚めつ吾は

豊嶋 雅明

(佐伯市)

すれ違う車のナンバー息子と同じ若しや誕生日は同じなるやも

安達 八重子

(日田市)

夫おくりたえる涙の三七日日にちが薬と説く老師

桑原 繁夫

(由布市)

年明けて喜寿の祝いを若駒のいつも元氣な姿見る

馬次郎

(大分市)

我卒寿子にしかられることばかり笑ってごまかす智恵もわく

竹永 秋子^{ときこ}

(中津市)

誰の手も借りずに野生の逞しさを産み育て虐待無縁

安部 哲雄

(大分市)

交流会アジアからの留学生日本語上手に自己紹介す

藤野 和子

(日出町)

秋韻^{しゅいん}は五穀奉上にオオジの神カラフル衣冠^{いかん}身に神楽舞い

裸木の枝々に置く霜の花朝の光に煌めきて消ゆ

高速を通れば見ゆる故郷が遠き思い出よみ返り来る

満月^{まんがんじ}寺深田の里にいにしえの真野^{まの}長者の伝説偲ぶ

手庇に運動場の親牛^{うし}かぞへ朝の散歩の日課を終へる

亡き父を思い出ずれば胸あつし綱をつくろう瘦身の父

新年の書齋に大きな変はりなし例外ひとつ書に供へ餅

今はもう漬け方忘れし老い^{はは}姑のかつての加減で大根漬け終う

昨日まで書いてた漢字忘れたと老い母今日も辞書引き学ぶ

父五十回忌の日時知らせ来る卒寿の兄の声弱弱し

ひねもすを医者医者医者とはしごする私しや暇人^{ひまじん}されどせわしや

選挙カー鶯嬢の声すれば若き日のわれ思い出すなり

進 トミコ (竹田市)

田中 清美 (中津市)

神原 泰子 (中津市)

吉田 勝徳 (臼杵市)

後藤 清人 (竹田市)

宮脇 和子 (佐伯市)

佐世 弘重 (臼杵市)

松本 かおる (豊後高田市)

ゆりの花 (大分市)

えい子 (杵築市)

中村 洋子 (豊後大野市)

岸本 成子 (大分市)



おばあちゃんスッキリシャツキリまだ若いと書かれし湯のみは孫のお土産

（佐伯市）

四人の子は今年も柱に記す線たがひを比べ年玉もらふ

内山 淨子

（別府市）

施設の母の百一歳の誕生日無事迎えてと祈る毎日

澤田 美弥子

（佐伯市）

避難所で余震に怯ゆる老う女の肩抱きしむる若き看護師

佐藤 芙美子

（由布市）

百年を経りし臘梅散る門に夫を偲びてしばし佇む

久原 弓子

（臼杵市）

アア哀れ柿の実すずなり食べきれず鳥も放棄か落果なり

武吉 慶子

（中津市）

風去りて大日如来像の供花横を向く乱れ直して坂道くだる

曾根崎 トシコ

（大分市）

還暦を過ぎて再び住みし地で寄り添い歩む黄昏の道

森田 郁朗

（日出町）

父がまだ生きてたときの日付ある桃の皮うすく剥いてゐる夕

長野 裕子

（宇佐市）

寝たきりにならぬようにと「リハビリに」自転車をこぐ百歳の友

小林 恵美子

（別府市）

生きている生かされていて八十路越え膝をかばいてベッドより立つ

日向 堇

（杵築市）

藁こづみ形を成しゆく立待の月皎皎と田に父在りし

穴井 香代子

（大分市）

新らしき年の始めの日射し受け近よる鯉の鱗が光る

安達 香

(日田市)

害獣にもぐらも加え我が畑はセキユリティー甘き樂園となし

香嶋 章子

(佐伯市)

友垣の一人ふたりと先立ちぬオーダーのシャツ纏ひ見送らむ

稲好 史朗

(佐伯市)

年老いて孫との会話楽しみに今日も貢ぎのケーキ持ち行く

岡嶋 吉治

(杵築市)

縁側にあまねく日脚入り込みて暖かきなりわが昼餉場所

稲葉 信弘

(大分市)

黒雲に傘をわすれていそぎ足後を追うよにカミナリの音

渡邊 哲雄

(豊後大野市)

突然に湧きし如なるにぎやかさ廃品回収に回り来し子供等

松田 君子

(大分市)

ことこととやかんのはじく音のして一人居の朝はほかに音なし

村上 信子

(佐伯市)

娘の受けし精密検査にことなきを朝に日に祈ぎ結果待ちおり

佐藤 照美

(別府市)

重ね来し齡片方に置きしがに白寿の媼踊り教うる

佐藤 満洋

(大分市)

雪が音を吸収すると言はるるにほんに静もる積雪の夜々

友永 章子

(大分市)

洞門の川辺に親子三人の昼餉のむしろ秋日和かな

有吉 明代

(中津市)

冬あらし八面山の慰霊塔寒さこらえて故郷恋しい

湯口 早苗

(中津市)

雲ひとつ無き高空に厳かに睦月の満月凜と定まる

河室 薫

(大分市)

新年会コロナの中で三年振り特選牛に絆深まる

渡邊 晃子

(日田市)

背伸びして新緑の風あびてみる自然のパワー我に満ち満ち

工藤 昌子

(臼杵市)

逝きし子の喪中のあとは賀状断ち無礼のままにひとむかし過ぐ

安東 和子

(臼杵市)

栗の木を脚立に剪る息と木下より指示する老夫おっまの声かけ合いて

甲斐 史子ふみこ

(大分市)

吾が過去の九十二年は禍福あり今は妻との感謝の暮らし

芦刈 成雄

(佐伯市)

元日に能登半島の大地震平和な暮らしを全て奪いぬ

佐藤 六代

(竹田市)

また一つ年を重ねて九十五才足腰鍛えりハビリ励む

小代 英子

(竹田市)

蔵のなか孫のひな出し安堵してひ孫のひなと初顔合わせ

栗林 典子

(杵築市)

怪我功名週一デイのたのしさは脳トレ筋トレ時を忘れて

財前 春子

(杵築市)

遠路より兄妹集まり足のばし孫の仕草に涙目笑い

松川 眞代

(杵築市)

1Kの部屋は孵卵器うずくまる部屋で再生明日の私

首藤 加代

(大分市)

応募先書き置きて母病床に朱書きの選者白紙の三首

丸山 礼子

(大分市)

着るものはもういらぬと言ひつつもセーター売り場を覗く我あり

詩野郎夢^{しやろうむ}

(日田市)

震災に忍え復興なるか阿蘇神社祭り流鏑馬御前迎え^{やぶさめ}

柴田 カヨ子

(佐伯市)

窓下の雑木の中の一本のひと際目立つサザンカの花

平野 ツギ子

(大分市)

テレビ観て能登の水無し自然災害なすすべもなく手を合わす日日

時枝 悦子

(大分市)

苦しみは推肥となりしこの土に春の日浴びて私は芽ぶく

古田 恵美子

(津久見市)

パーキンソン病む友皆とのお茶のあと杖を忘れて歩き始むる

加藤 貞子

(大分市)

ちろちろと燃える「囲炉裏」で酒を酌む下座で母さんお鍋の支度

柴田 秀男

(佐伯市)

日曜は楽しみにまつ新聞のクロスワードパズルで頭の体操

矢幡 和子

(日田市)

キャンパスを下りて進む坂道のデモ隊の中君といった夏

藤内 浩

(別府市)

初盆に「またネ」と送り火焚きおりて夢にも会えぬ現つ忘れり

布施 睦子

(竹田市)



古いぬれば己が心に従へと天の声する朝焼けの空

久富 豊治 (大分市)

和やかな母の遺影に手を合わせ子や孫の無事祈る毎日

重光 寛子 (国東市)

生きてれば百十一の父親の五十回忌は一月十日

濱田 玲子 (津久見市)



エレベーター無き三階に永く住み加齢の足の痛きに悩む

木許 保代 (大分市)



遅刻して一人行く道遠からう俯き歩く背を見つめる

春香 (大分市)

カメラ屋の七夕飾り短冊は夢の形骸宝くじそよぐ

三浦 初音 (大分市)

一步中入って感じるあたたかさここなら良いと笑顔の母97歳

高島 さとみ (大分市)

初夢に笑顔の亡母が枕元百才までネと言って去り行く

佐藤 タガ子 (臼杵市)



急逝の友の十八番をしみじみと夫が唄う「刈干切唄」

藤井 妙子 (大分市)

夫婦して七度目の干支がなんぼるぞよく食べよく寝て普通のくらし

中村 宏枝 (中津市)

髪の毛も眉毛も髭もすべて白されど元気なり我は九十四

雨宮 恵二 (中津市)

今もなお数多の人が願うとう天安河原妹と石積む

廣田 静代 (佐伯市)

干し柿を軒下に吊るす昼下がり晴天の空日差し眩しく

小野 千恵美 (中津市)

直してた漆工美品輪島の箸に手を合わす

穴井 政枝 (日田市)

能登の旅高級蒔絵品そろえ今は家の宝物

穴井 隼己 (日田市)

茜雲慕うか西へと三隈川静かに想う極楽浄土

工藤 正徳 (日田市)

また一軒解体されゆく空家かな往時の人や今いずこ

ニューシニア (中津市)

種子さえ天地日月実り秋流れ惜しまず頭の集い

植山 哲男 (中津市)

施設変はる義姉はむかへのスタッフにあなたはどなたと何度もたづぬ

繁里 泰世 (大分市)

我庭のチューリップよ霜の地中いずこにおるか赤白黄色

桧垣 悦子 (佐伯市)

野仕事を終えて急ぐ帰えり道夕日まっ赤に山にしづめり

藤田 絹子 (豊後大野市)

草花に頑張つてネと手をかざす幼き子等に戦なき世を

三重野 美奈子 (杵築市)

裸木はすべてぬぎ捨て枝ひろげありのまま見せ春を待ちをり

辻 和代 (中津市)

陽だまりで「シワが増えた」と笑う夫「あんたの顔も」我ら牛飼

大久保 節子 (竹田市)

カタカナに漢字ひらがな文字とは象なきわれの心の具象

志津里 瑞穂子

(由布市)

除夜の鐘撞きたる人ら境内の焚火に寄るも会話はなくに

山崎 美智子

(大分市)

日の出前海に写りし日の光神々しさに合掌する

東 登久恵

(臼杵市)

床に伏す夫の笑顔の恋しさにはらいのけたる南天の雪

なをみ

(日田市)

裏金をなかつたものとあきらめて能登半島へ暖と食を

野田 由美子

(日田市)

字も書けぬ半身不随の身となりてリハビリはげめと由布岳はいふ

野田 勝則

(日田市)

人の居ぬ母の生家の古き納屋山師の祖父の鎌掛りをり

後藤 恵

(臼杵市)



柿好きの子規をマネして干し柿を友の加勢でつくる年の瀬

篠田 輝一

(津久見市)

仏の座一年中伸びたがる雑草の王吾負けられぬ

宇薄 晴美

(臼杵市)

それぞれの襷の重さ背負いつつ走る若者箱根駅伝

矢野 留美子

(臼杵市)

東の空輝き始む新月の細ぼそ淡く早やくれぐれて

伊東 美代子

(臼杵市)

技を持つ唄が友の散髪す会話可笑しく吾も足を止む

吉田 陽子

(臼杵市)

八十路まえ朝刊配る兄のゐてうしろ姿にエールを送る

竹 永 葉^は麻^ま

(臼杵市)

リハビリに髪染をする友のゐて一つの仕草に頭の下がる

吉田 幸子

(臼杵市)

さわやかな秋の夜空に飛行機雲満天の月を仰ぐ

藤 純恵

(大分市)

コスモスの沢山咲いてる野原に昼寝したらどんな気持ちかしら

平林 彌生

(大分市)

孫ひ孫帰りし後は淋しくて一人静かに熱きお茶飲む

小野 和子

(玖珠町)

はるかぜの笑顔で作るぜんざいを食べる素顔はエビスダイコク

いちろう

(玖珠町)

あと十年楽しく生きようと励まして連れ立ち歩く川辺の小道

桜井 勝己

(竹田市)

田んぼ道こうべをたれるこがね色そえる一輪まんじゅしゃげ

佐藤 閑^{しずか}

(佐伯市)

入所者は楽しく笑って助け合い明りなければ安否気づかう

帆足 幸子

(玖珠町)



久住高原には、高名な歌人の歌碑があちこちにあつて私たちを呼んでいます。

大いなる師にちかづくに似たるかな 久住の山に引かるる心

与謝野 鉄幹

立派な師に強く魅きつけられて、自ずから寄つていくような気持ちとよく似ていることよ、この雄大な久住山に引っぱられる心は。と鉄幹は師を持つことの幸せを詠っています。

短歌は一人でも作れますが、師につき、仲間と切磋琢磨して伸びる文芸でもあります。

大分県歌人クラブ 山本 和可子



令和六年元日の能登大震災に心を痛め、歌で勇気づけたくなり、トンコ節で唄う「タンカ節」を作詞してみました。誰でも唄えることを念頭に、広く普及できたらとの思いです。

◎五七五に七七と 言葉を繋いで三十一つづり

辞書で活字を整えて 次の歌会に望みます

(ネエ、タンカタンカ)

◎一度読んだら気に入って 有名歌人の叙情に浸り

ことば選んでイロハニホ…自分自身を見つめたい

(全)

◎昔の和歌は今短歌 日本人なら誰でも詠める

日記代りも貴重です その内 気が付きや歌人です

(全)

◎上の語句より下の句が どっしり据わって一首を成して

これを幾首も続けたら 心の底の生き力

(全)

◎あなたの短歌の出来映えが 沈んだ心を生き返らせた

今日はわたしが浮き浮きと 詠んでお返しいたします

(全)

◎短歌を詠むより田を作れ 戦後厳しい暮らしの中で

親の言葉が痛かった こっそり続けて今がある

(全)

◎誰も知ってる「君が代」は 字余りあろうと三十一文字の

曲も涼しい国歌です 国を挙げての国歌です

(全)



「大分県歌人クラブの紹介」《会長 伊勢方信》

昭和36年（1961年）創立の大分県歌人クラブは、本年10月に、63周年となります。

歌人クラブの目的は当初より「会員相互の交流と研鑽を深め、県歌壇の振興に寄与する」ことにあり、クラブの主催・後援・協力事業のすべてについて広く門戸を開放し、他府県の歌人団体との情報交換などを図りながら下記の事業を実施していますが、IC時代の到来による生涯学習の多様化から、会員の減少が続いていることに加え、5年目に入ったコロナ禍の生活や、ロシア軍のウクライナ侵攻、イスラエルとパレスチナの戦争や生活環境の変化など、歌材は多いが、若い世代の会員が少なく、近い将来、県歌壇の衰退を招くのではないかと強い危惧を抱いています。

短歌は、5・7・5・7・7の形式さえ守れば、何をどう詠んでもよく、巧拙を超えてすべて短歌です。友人や知己に、古きよき時代と言われる頃の思い出や、現在の境遇・人生観などを、生きた証しとして短歌（うた）にするようお勧め願います。

◎活動の柱

- 1) 広報関係……………大分県歌人クラブ会報の刊行（年3回）
 - 2) 歌会関係……………主催、共催、後援、協力の短歌大会。
 - 3) 庶務会計関係…入退会に関する事務ほか。
 - 4) 振興関係……………クラブの振興に関する時宜に応じた催しなど。
- ※年会費 2,000円。入会に関する問い合わせは下記へ。

連絡先 〒874-0000

別府市大字亀川2328番地の5 山田義空

TEL 090-4778-7303

俳句の部

審査協力 大分県俳句連盟

	応 募 者 数	作 品 数
	(人)	(点)
俳 句	4 1 0	7 5 4

俳句全体評

一句一句に人生が結集され、今年は元旦から能登半島で大地震があつたことなど世の中の縮図が投影されておりました。総じて、実に味のある俳句が出されていました。

自然を詠む、まわりや世の中の出来事を詠む。それに、老いの身のこと、身内のことなどを詠んだ句が多く出されました。その句から楽しさや元氣をもらいました。若返りさえ感じました。

これからも、健康で老いず、アンテナを広げ、句作に励み、意欲的に投句ください。

大分県俳句連盟

会長 吉原 白天

吉原 白天 選

特 選

すらすらと渋柿剥く手黒い皺

藤本 和枝（日田市）

〈評〉「すらすら」とから皮を剥く様子がよく分かる。長年やり慣れている。黒い皺から老いた手であろう。様子を實によく表現しているし、奥にその思いも窺える。この俳句から、十二分に、情景も気持ちも伝わってくる。

入選

餅搗の老いの指揮なす四世代

渡辺 セイ子（大分市）

〈評〉

四世代そろっての餅搗、素晴らしい。最近はあまり見られない光景です。老いて指揮が出来る、この句から元氣がもらえそうです。

入選

新年の夢を砕いて大地震

国本 紘司（豊後高田市）

〈評〉

今年は元旦早々、能登半島が大地震にあい、大変な被害が出ています。その様子が想像されますし惨事の心情もよく分ります。

入選

甲子園笑い泣き舞う夏遠し

佐々木 幸香（豊後大野市）

〈評〉

球児たちの目標、甲子園。そこから楽しみ元氣をもらうドラマが生まれます。「夏遠し」の意味は深く、読む人に思いを広げます。

阿部 王 一 選

特 選

おほかたの事は許せる柚子湯かな

小田 祥子（大分市）

〔評〕 柚子湯に入り、一日を振り返っています。いろいろなことがあったけれど、それも過ぎたこと、と受け入れているのです。大方のことはそうしてやり過ぎしてきました。柚子の香りが「お疲れ様」と労ってくれています。

入選

父母知らぬ未来を生きて初景色

阿部 うれしこ（大分市）

〈評〉

いつのまにか、亡くなったお父様お母様の年齢を超えた作者。これからは両親が見ることのできなかった人生の景色が広がります。

入選

春浅し認知度は年相応に

工藤 翠（大分市）

〈評〉

認知度に限らず、〇〇年齢は若いに越したことはありません。しかし、年相応ならそれで十分、と肯定的に受け止めています。

入選

好奇心捨てぬ八十路の初御籤

後藤 正人（大分市）

〈評〉

俳句をしていると季節の変化に敏感になります。歳時記を捲れば素敵な季語がたくさん。好奇心いっぱいに八十路を楽しみましょう。

中尾 豊子 選

特 選

百年の旅の途中を着ぶくれて

小倉 英司（豊後大野市）

〈評〉 人生百年の時代。この冬も重ね着をして無事に乗り越えた。「旅の途中」の惜辞が軽やかな楽しい年月を連想させる。もし何かに躓いても、その先には佳いことも待っていると希望を持たせてくれる。心の持ち様が素敵。

入選

農具舎の護符貼り換へて初茜

加藤 賢二（豊後大野市）

〈評〉

大晦日、農具舎の清掃を終え守り札も貼り換えた。外は既に新年の曙。丁寧な暮しぶりが伺える。きつと今年も豊作にちがいない。

入選

初日さす鏡の褒むる笑ひ皺

みえのてんし（大分市）

〈評〉

元日の朝、鏡に向かって百面相をしてみると、やはり笑顔が一番似合う。今年も笑い皺を深く刻んで周りの人も笑顔にして欲しい。

入選

麦の芽の日射しに風に背伸びする

龍現寺 敏子（由布市）

〈評〉

冬枯れの中、鮮やかな緑の小さな命。作者は我子を育てる様な優しいまなざしで毎日畑に通う。日差しと風と貴方に応えて伸びてゆく。



阿^あと畔^{うん}が年々伸びて年明くる
今年中辞めると云うて年を越す

柴田 昭三郎 (大分市)

窓を開け我が新年を呼び入れる
我が命星の欠けらのひと雫

鶴男 (大分市)

朝焼けの天^{そら}からめぐみ夕虹と
去年今年煤と一緒に飛び去りぬ

嶋末 洋子 (大分市)

叱られず無駄使ひするお年玉
着ぶくれの一番上に母のもの

睦 ほたるこ (大分市)

ちちははの墓天領は寒からう
十二月八日の空の晴れてゐる

えみ (大分市)

薄氷や立志おほかた故郷出づ
この家に残る昭和や蚊帳の釘

阿部 正調 (大分市)

初日の出浴びて輝く車いす
書き初めや母の一字を何枚も

市ヶ谷 洋子 (大分市)

花しょうぶ咲いたよと客待ちかげん
和の味が温暖化で減る柿のれん

佐藤 文人 (由布市)

裏道を通る宅配雪の中
掃除機のバッテリー替え十二月

畑本 しず子 (玖珠町)

退院日今だ決らず由布霞む
由布院の小洒落た茶店や鉄線花

溝部 明夫 (臼杵市)

子が拾う銀杏選び絵手紙に
紅葉散りまだらの庭に夕日さす

央佐充 (宇佐市)

旅立ちの朝を見送る冬木立
らんらんと光る太陽冬の街

原田 洋治郎 (豊後大野市)

うらを見せおもて見せ散る落葉かな
みづうみのひかりかがやく種袋

田中 英俊（宇佐市）

一願を秘仏へ託す小春かな
潮の香の籠に照りよき蜜柑かな

和田 慎一郎（大分市）

年賀状孫の写真に初笑い
初恋のなつかしともに賀状出す

日名子 隆（大分市）

ろう梅が香りし家は廃きよなり

辰年が三代続く縁起良さ

大神 愛子（豊後大野市）

特攻の遺書遥かなる雲の峰
牛の背を染めて夕焼草千里

神徳 和雄（津久見市）

露けしや写真の母はいつも端

愛といふ魔法をかけておでん煮る

立花 眞由美（豊後高田市）

罽雲木々より深く志高かな

コロナ癒え素湯に味知る秋の朝

堤 謙（大分市）

ハーモニカ楽しく吹いてる百三才
久かたに遠くの子らが帰りおる

緒形 豊子（佐伯市）

こんな自を好きになる日や吾亦紅
ラガー等の土にまみれし笑顔かな

油布 晃（竹田市）

海光へ拳ゆるめぬ寒椿

待春の今が幸せ浪の華

中鶴 政子（佐伯市）

猫が居て爺婆が居て縁小春
想ひ出を昨日の如く日向ほこ

あけし（宇佐市）

故郷の山河やさしき初日影

爺婆の仰け反つて飲む寒卵

武内 政行（日田市）



大蛇死す喜ぶ子らや里神楽

この世にて命始まる双葉かな

永田 久美子（大分市）

牛の耳小さく震え寒波来る

雪虫のふわりふわりとふいに消え

河野 武司（大分市）

背負うことあればあるほどくすりぐい

パンジーと二人の笑顔デイサービス

瀧 テツ子（大分市）

耳朶^{じだ}染めて投げた彼の日の雪合戦

スプーンに盛られるが如笹の雪

浜崎 千六（国東市）

凍て星の大三角や深々と

初空の光燦さん寺清水

斉藤 小夜子（津久見市）

山里の道辺染めしけいとう花

落葉焚く昔話しに花が咲く

佐藤 広美（杵築市）



この年でサンタのかだりサロンでの

8ひ孫健康第一析るババ

穴見 ヒデ子（豊後大野市）

村のどか廃校跡に健診車

暖かくなりましたねと垣根越し

加藤 京子（豊後大野市）

風花や莓ハウスの花となる

初富士の空の形の目出たけり

岡野 しずこ（国東市）

里の田に摘みし芹の香懐かしき

着ぶくれて焚き火を囲む里神楽

遠人 和子（中津市）

餅搗きの返し手上手き嫁の来る

返り花吉四六の里にちらほらと

智恵子（大分市）

桜咲く頃に予約す膝手術

菊桜ひまわり暖冬乱れ咲き

道草（大分市）



強く持つ心の言葉冬深し
ポケットに去年の飴の残る冬

上尾 ヤス子 (大分市)

風呂敷を抱えて思う母紅梅
大自然ベールの谷や大吊橋

古城 千佐子 (国東市)

銀杏黄葉して金色の米寿かな
生きていることのよろしき老いの春

加納 正輝 (佐伯市)

だれに似たその幼子案山子かな
初暦心新たにめくるかな

井上 のり子 (中津市)

悲しみを笑いに变えて過ぎる春
椿咲くめぐる季節に笑いの輪

後藤 祐二 (大分市)

はだかの木落ち葉眺めて春を待つ
年の瀬に我が子の帰省懐かしむ

富田 正子 (大分市)

古里の庭に佇み手を合わせ
廃屋の後に残りし蔦葛

矢野 節子 (大分市)

入院のおもゆ眺める今朝の秋
たゆたうて春告鳥の標なる

早澤 まり子 (大分市)

食卓の主なき椅子長き夜
手花火を持たずお世話の長女かな

三松 杜窓 (日田市)

体重と歩数記して日記果つ
春の雪過去が音なく降つてくる

告天子 (国東市)

人生を共々生きて四季楽し

あいこ (宇佐市)

喜寿むかえ初心にかえり初句会
初鏡今が一番きれいかも

荘田 泰代 (臼杵市)

辻馬車の蹄の響き山笑ふ

仕舞湯にほんのり染まる小正月

本庄 正克（杵築市）

紙垂の際立つ白の淑気かな

恵比寿講舳先揃ふ船溜り

後藤 美子（臼杵市）

新年の尾頭付の小さきこと

常連の顔ぶれ不敵初句会

章彦（大分市）

晩年の音なく燃ゆるはぜ紅葉

母子草心の父母は老いぬまま

古川 みつよ（津久見市）

産土の杜にこんこん寒の水

法師蟬何を急がせて誰に鳴く

森下 菊男（豊後大野市）

書きぞめに平和と書いて筆を置く

初夢に父母の声聞きほっこりと

河野 光子（杵築市）



八十歳大欠伸して年明くる

里神楽戸口はすべて開け放ち

望月 美住（大分市）

窓映る初東雲の明るさよ

成人の孫の姿に平和感

八坂 紀見世（大分市）

ツリーなきクリスマス祈ることは止めぬ

一人居に馴れぬ一日中寒い

安倍 雄代（大分市）

初日さす鏡の褒むる笑ひ皺

初夢や異国料理の五味五色

みえのてんし（大分市）

いそがしき朝をかきこむ寒卵

寒禽の声なき影が影を追ふ

公節（宇佐市）

紫陽花に百寿目指せと囁かれ

高原のパノラマに酔う残暑かな

時松 秀子（玖珠町）

菜の花の丘の続きや海の青

湯タンポのぬくさ恋しい今朝の冷え

矢野 智子（豊後高田市）

身に入むや葉っぱのフレディ読みし夜は
井戸端の柿熟るるころ里帰り

新名 ともこ（大分市）

農具舎の護符貼り換へて初茜
住みつきしここが古里溝浚へ

加藤 賢二（豊後大野市）

咳一つ不器用だねって妣の声
悴みて二ページ飛ばすトットチャン

森末 律子（大分市）

廃線の面影橋に草茂り

万緑や歩きながらの塩むすび

はぐれ雲（中津市）



人生は彷徨の旅寒北斗

LINE打つ悴む指で合格と

後藤 明彦（宇佐市）



脱ぎ捨てて恐きものなし老枯木

山守る猛者七人のぼたん鍋

健 皚（臼杵市）



蔵めし母の手料理今は吾

白椿夫よりいただき泣笑い

麻生 初子（津久見市）

風呂敷に包む古里吊し柿

賜はりし日々使ひきり露の花

豊岡 陽子（由布市）



白百合の届く息子の命日に

赤蜻蛉ひとかたまりにとび去りぬ

山中 イフ子（大分市）

蠟梅の香る坂道行き帰り

菊花展母の形見のメガネして

吉田 伸子（中津市）

夢開く宇宙朝顔花屏風

山路尽く爆水見上ぐ直不動

穴井 和子（玖珠町）

夜となり玄関であれば満月よ
緑葉カシワバがきれいにかわり紅葉へ

野中 平八郎 (大分市)

リハビリや夢ふくらみて福寿草
生かされて卒寿むかへし梅一輪

水気 貞子 (由布市)

星くずの上に鎮座の冬の島
リビングに春の七草香りけり

金子 (津久見市)

春浅し認知度は年相応に
きんかんの甘味ほどよき口当り

工藤 翠 (大分市)

父母知らぬ未来を生きて初景色
平凡に生きる幸せ初山河

阿部 うれしこ (大分市)

傘寿尚夢と大書の初硯
八度目の干支を目ざして玉子酒

紅洞 (大分市)

断捨離の候補にあがるインパネス
リビングに明るき日ざし雑煮椀

南女 (大分市)

足丸め布団被りて今朝の冬
廃屋の連なる里に悴めり

岩尾 俊信 (大分市)

エンジンをふかせ気合いで草を刈る
秋晴れやクラブ片手に夫つま笑顔

近藤 範子 (豊後高田市)

年の暮言葉少なに別れけり
冬耕や日暮の空を背に負ふて

松本 己代子 (中津市)

たんぽぽの綿毛吹かれて又一生
夕晴れの大根干す手花のれん

谷崎 弘子 (由布市)

筆置くや賀状仕舞の友の顔
栗ごはん頬張る笑顔父の居り

豊岡 晃塔 (由布市)

朝霧が風に散り舞う過疎の里

岡田 真知子（国東市）

着膨れてなほ煖を取る老二人
一筋の川に子供の夏休み

安達 郁雄（国東市）

新玉の紅引く母は四次元に
年新た近頃涙もろくなり

松村 勝美（由布市）

百舌の贅風情にあまる老いの庭
花筵杖つき惑うを子ら駆ける

曾宮 点（佐伯市）

天井の光る竜の眼淑氣満つ

田畑は祖母の形見や春の里

徳永 榮子（臼杵市）

初詣お隣さんと笑う旅

冬草の生きるはこれと示すかな

高橋 和美（豊後高田市）



うっかりと持病わする屠蘇の味

減塩の食にも慣れて春隣

蛭原 テルヨ（別府市）

今生の余白にしみる初音かな

追焚の風呂へ落葉を一握り

湖人（津久見市）

風揚げの空広々と青々と

頼もしや姉百歳の年賀状

桐井 育枝（大分市）

うぶ声の力強さよ初茜

好奇心捨てぬ八十路の初御籤

後藤 正人（大分市）

今年こそ心に残る初句会

お正月曾孫三人大笑

淑子（豊後高田市）

着ぶくれてじいちゃんの声後ろ打つ

冬眠を忘れ徘徊親子熊

河野 駿次（日出町）

一月の海一月の志

日日違ふ鏡のきげん寒の入り

高田 英子（日出町）

まづ孫に年始挨拶初電話

年賀状だけの縁も繋げたし

重岡 尚子（宇佐市）

今生の命ひきつぐ初曆

七度目の干支の影ろふ去年今年

佐野 弘一（大分市）

図書館の窓いっぱい冬の景色

生きるとはたやすくはなし木の葉髪

木村 弘治（国東市）

はや二十日普通の暮らし福寿草

卒業の子等に最後の読み聞かせ

木村 説子（国東市）

訪問の診療は夜冬満月

御慶かな顔ぶれ揃ふ福祉バス

吉賀 京子（臼杵市）

年の暮老いも若きもせかせかと

ザクザクと玉砂利踏み初詣

大塩 政道（別府市）

九谷碗椿紅白凜と咲き

箸紙に名前を記し祈る幸

安藤 幸枝（豊後高田市）

言足りぬ言葉のやうな小夜時雨

子の嘘の色にやりけり冬苺

友永 美保子（大分市）

平飼ひの若鶏潰し薩摩汁

山火果て勢子は兎を提げ帰る

小野 道山（大分市）

春届け孫の声待ち夕支度

夫逝きしつつましきかな寝正月

渡邊 サダエ（日田市）

一人居の床に二株黄水仙

廣瀬 光代（佐伯市）

奨励賞（女性最高齢者・一〇三歳）

春動くポップコーンのはじく音
優先席浅く座って咳ひとつ

吉田 紫紅（別府市）

堂跡に安寧の翅冬の蝶
短日や一筆箋の走り書き

宮崎 美代子（大分市）

紙漉くや水の機嫌を図りつつ
ランドセル幾度^{いくたび}背負ふ春近し

平田 はつみ（杵築市）

初詣石段上り膝わらう
蠟梅の微かに香る散歩道

松尾 冠一（日田市）

なで肩といかり肩ゆく春小袖
浮雲や吉報載せて鵲くる

森本 ゆみこ（日出町）

割ぼう着きりりと結び初鏡
降り積もる木の葉踏みしめ歩きけり

吉武 保子（国東市）

いつの間に八十八歳寒牡丹
枯葦にねぐらを探す群雀

糸永 ケサヨ（国東市）

暖冬か川津桜も芽吹きおり
散歩道一つ二つと露の臺

阿部 紀代香（杵築市）

突然の右目失明春の闇
三が日寝不足続く子の囁

木下 詩子（日田市）

新鳥居家族と潜る初詣
今年また若菜刻めて粥を炊く

佐々木 里枝（宇佐市）

秋夕焼稜線急ぐ鳥一羽
茶の花や人目をさける高さかな

中原 妙子（日出町）

体験談とつとつ語る梅の里
帰省子にパソコン習ふ我卒寿

小関 弘美（日田市）



老いてまた朝ひびき来る杵の音
新学期きびしき友よ小雪まう

池島 總夫（日田市）

西天紅秋桜の残香押し流す
雲流に想いを込めて鶯啼く

端鳥（国東市）

大晦日こたつはいらぬ汗かいた

三浦 千秋（豊後大野市）

落椿集めし作る首かざり

ふる里の空に合掌冬牡丹

角谷 法子（大分市）

冬構八十路閉じけり姉の逝く

王義之になりて筆持つ昼薄暑

崇華（由布市）

人の世の終活見たり枯菊に

キッチンの省エネ寄与す日向水

薬師寺 武信（津久見市）

小さき背が丸くふたつ日向ぼこ
生を醸す杯にあふるる今年酒

天田 泉美（宇佐市）

去年今年万感胸に深呼吸

初詣合格祈願代理人

野上 明範（豊後高田市）

成人の日の柔き手とハイタッチ

自転車の荷籠に歪む花梨の実

文香（宇佐市）



大地震おおいて怒れる大地年明くる
孫くるる笑顔が宝今朝の春

佐藤 公代（宇佐市）

半世紀夫の寢息や年明る

さつま芋命の糧と食らいし日

あやか（豊後高田市）

蕨狩り父母の思い出鍋の中

冬晴や送迎バスでけふはデイ

つわぶき花（津久見市）

一月や今日も走るや救急車
夕暮に鳩五羽づれで寝屋戻る

原口 五月（竹田市）

門松を褒めて晴着をほめらるる
ゆけむりの女三代舞始

佐藤 眞理子（日田市）

被災地に届けと新年女子走る
日々開く水仙の力ゆるゆると

橋本 弘子（大分市）

若者の真摯に見つむ初みくじ
初詣笛や太鼓に駆け出す子

撫子（国東市）

杖となる君に勤労感謝の日
明けの春大地鳴動能登^{のとのくに}国

真喜子（由布市）

冬霧のはれゆく流れ川鵜群れ
背のびして青空に結ぶ初みくじ

小関 敬子（日田市）



寒椿落ちてカタシブ口を閉じ
年女六度目の春を走り抜け

育世（国東市）

二度となき雲のかたちよ冬の空
山茶花は咲く花よりも散っている

田口 正昭（国東市）

終活と整理してみる秋の夜
百年の旅の途中を着ぶくれて

小倉 英司（豊後大野市）

雛飾りお茶を一服供へけり
青空に両の手伸ばし柿をもぐ

田長丸 桂子（中津市）

原発で流水に舞う希釈水
由布岳の頂き映える初寒雪

後藤 喜重（由布市）

年賀状裏から前へ続く文字
初鳩や朝の光の旋回す

小野 蒼水（由布市）



やはらかき春日の中の宮参り
身ぢろぎを一つこぼして寒の鯉

小野 瑞季（由布市）

絵手紙に先づは認め福寿草
奥都城や悲恋の里に笹鳴けり

朝久 英機（日田市）

借りものの星で戦か冬銀河
傘寿得て庭一坪に大根蒔く

芋岡 勝一（臼杵市）

留守の戸をつばめに少し開けておく
防人のふるさと慕ふ月の雨

吉武 千束（中津市）

炊事場に立ちて一先ず福沸し
父の忌のたんぽぽみたい顔集ひ

神 冬子（別府市）

冬の雲夕日つつみて動かざる
冬の梅まづは一輪開きをり

村岡 恭子（大分市）



菜の花の中の村なり母の里
万歩計スタート朝の落葉踏む

阿南 友信（竹田市）

紛争の絶えざる地球春よ来い
梅薫る願ひさまさま絵馬たんと

諫山 真砂子（大分市）

笑い声きなこと酔もちまご九人
冬の朝ゆれる虫かご小さな手

安藤 順子（日田市）

グラウンドに子らの歓声寒に入る
初春の誓ひは「前進」囁言ひ

吉岡 雄三（竹田市）

年立ちて緩ぶ心に地が揺れて
咳止まぬ吾子の背さする夜は長し

清末 美栄子（豊後高田市）

黄金のコールドムーン杵築城
濃紺の葉陰に光る龍の玉

中野 武子（豊後高田市）

朝毎に拝む頂初烏

道端の藪より美男葛かな

房前 和加子 (大分市)

初春の夢心うれしき孫の顔

曾我 操 (佐伯市)

生かされて米寿の坂のお元日

税の字の大きく太く筆始

八十路 (豊後高田市)

雪催^{もよ}いぐい呑み二つ膝に猫

霜の田のすずめ狙つて跳ねる猫

江口 俊 (杵築市)

老の春甘え上手を志す

句仇と打つ人日の四拍手

今村 七栄 (宇佐市)

一步まへいつば前へと梅二月

笹舟や春の田圃へ水奔り

片岡 学 (別府市)

散り際をこよなく愛でる桜人

鐘ひとつ撞きし合間の寒さかな

ひさじ (玖珠町)

鎮まりて古きみ杜初詣

八十路なほ免許更新日日草

佐藤 和代 (大分市)

老^{おい}の歩^ほに杖も身の内山笑う

初夢や想い出つて旅に出る

永田 豊子 (宇佐市)

口説き歌闇にしみ入る里の盆

青天に長兄の笑み百日紅

吉良 アヤ子 (竹田市)

荒行の鬼の背割りや藪柑子

天空へ余すことなく風の糸

花本 公明 (大分市)

日溜りは水の上にも鴨浮寝

お手玉の音を回しぬ四温かな

竹下 百合子 (大分市)

介護するもさるるも笑顔大旦
見返れば見送られをり去年今年

遠見 百合子（津久見市）

妻はガン大将ポツリ牡蠣の鍋
薄明り椿の芯と目が合ひぬ

松尾 菊恵（大分市）

湯豆腐や湯気の向こうの余生なほ
花さくや共に歩ゆみてダイヤ婚

神屋 富美子（大分市）

六年の元日かける震度七
屠蘇ごこち朝日を受けしゴルフかな

内藤 幸一郎（由布市）

留守がちなお隣の庭冬木の芽
鉾杉の天辺ゆする寒鴉

吉川 さち子（日出町）

二次会のおでんはいつも大根^{だいこん}から
春キヤベツペロンチーノは娘^この十八番^{おはこ}

石垣 美恵子（大分市）

助け合う町の暮しや春日和
大根の腕となりし介護かな

藤延 秀則（豊後高田市）

老人会ふえてへった子供会
世は情け愛は血ならず和の絆

井上 トクエ（別府市）

山茶花に初雪のせて冬ボタン
古家にも来たりてにぎあう嫁が君

竹永 秋子（中津市）

謡初老いて結い上ぐ銀の髪
四世代揃ひていつものおでん鍋

中野 順子（杵築市）

間引菜の命のみどり今朝の汁
百二十四時間老女生きてあり寒^なの地震^い

阿部 寿岳（竹田市）

明の春竜があばれる能登半島
初春や被災地に雨容赦なく

畑 正彦（日田市）



初電話父の法事の日時決め
ストーブや仮想の炎燃え盛り

三浦 初音 (大分市)

雨おもき背戸の日昏れや露の花
つくばいの水の春日を掬いおり

ていとく (杵築市)

山藤の風に吹かれてゆらゆらと
わが園に著^{しやが}我の群生美しき

野川 色江 (竹田市)

ほころびを早春まつ梅の花
水仙の香りただよう庭先に

津村 都由子 (豊後大野市)

その器量ほめて貰へり今年柚子
傾山の尾根に尾をひく鹿の声

工藤 祥子 (竹田市)

餅搗の老いの指揮なす四世代
沢庵やむかしながらに柿の皮

渡辺 セイ子 (大分市)

急ぐ事なく迫る除夜の鐘

殉国の兄命日は菊日和

桑原 繁夫 (由布市)

この青き地球の永遠にいわし雲
恙なし遠目に媼農始め

秋野 千代 (国東市)

言ひ止^さしの別れを想ふ梅二輪
大根の花ぼつねんと昼下がり

まさひこ (佐伯市)

新春に新大鳥居くぐる果報
家族連れ金婚祝う初湯かな

弦田 賀代子 (宇佐市)

老介護心無にして春を待つ
地震の地を想ふこれしき寒さかな

都留 ナミ子 (宇佐市)

玄関の菊は開いて五日かな
御降^{さが}りも披露の宴の客となる

石楠花 (宇佐市)



行く道を教へる友の冬ぬくし
立春の朝搾り酒予約して

山田 あつみ (大分市)

金婚を指宿の宿年の暮
小寒や喜寿に戴く祝ひ酒

弦田 満明 (宇佐市)

高校の全員手話で卒業歌

強東風や洗濯物の片寄りぬ

はづき (大分市)



初日の出豊後二見ヶ浦光る波
冬バラや静かな朝日にかがやきて

是永 初代 (由布市)



初日記生涯一句未だ生れず
寒紅をさして老妻若返る

甲斐 梶朗 (別府市)

新年に斯かる国難海と空
御降りや真夜中走るバイク音

阿部 敬雄 (由布市)



南天を生けし門松震度七
菊生けし友をしのんで唄と酒

岩田 司易 (由布市)

宵雨の残せし真珠枯古木
麦の芽の日射しに風に背伸びする

龍現寺 敏子 (由布市)

まつすぐに父の浄土へ初日入る

頑な口ゆるるばせる冬の虹

稲水 (由布市)

記念樹の桜満開五十年
和箆の羽織留袖風光る

工藤 恭 (由布市)

藤棚に葉つば七枚初景色
日出づるやうに蕾や福寿草

佐藤 豊治 (由布市)

三個目のメガネ拵へる鬼やんま
敬老日手足の爪の手入する

土屋 富 (由布市)

大蛇出て収穫祭の里神楽

西瓜畑イタチ寝ている罌の中

麻生 君子（由布市）

初盆の碁盤の上に亡夫笑う

ひとり居の軒下ひかるつるし柿

濱田 愛子（豊後大野市）

探しもの未だなきままに春を待つ

山茶花の誰も待たずに白く散る

吉富 敏子（大分市）

のどあめをなめて咳をしずめいる

白雲に届くごとくにとんび舞ふ

安藤 美千子（佐伯市）

晩学の傘寿の願ひ梅ふふむ

晴れ渡り成人の日の夫婦楠

首藤 順子（大分市）

春来るを待つバーゲンの軽い靴

皴白髪相応で良し初鏡

横山 八千代（大分市）

曾孫抱く爺の笑顔や冬日向

春夕焼け腕くみ見上ぐ晴男

佐藤 順子（大分市）

見送りは駐車場まで冬銀河

凍蝶の折紙のごと翹たたむ

豊東 美智子（大分市）

初明り時ゆるやかに流れゆく

寒木瓜の一枝一枝の力かな

里華（大分市）

ひとしきり上ぐる灯明年始

片脚を陸に踏ん張ばる冬の虹

堤 節子（別府市）

春の風邪眠気に勝てぬ糖衣錠

ちぐはぐな会話のはずむ日向ぼこ

本多 英子（大分市）

冬の星光年といふ輝きを

禅林の黙を破りぬ春の禽

安部 三枝子（大分市）

一族の最後のひとり木瓜の花
古典詠むアルト涼しき夜のラジオ

凡女美（別府市）

牛蒡土着いたまま持つて来る

大根をもらう今日も二三本

しげる（佐伯市）

ジヨウビタキ紋付羽織でお迎え
うす雪に狭庭染りて静かなり

吉田 勝徳（臼杵市）

蠟梅の黄黄色のワンピース

読初に文庫は邪馬台国

佐藤 トヨ子（津久見市）

六年は笑えぬ年明け大地震

ひ孫には笑みで答えてしつけする

木元 キクエ（大分市）

席入りや蹲いに浮く紅椿

妣譲り良き風待ちて大根干す

とも女（宇佐市）



夏見舞ひくせ字の友の定期便
咳ひとつ夫の背中や小さくなり

多田 裕子（国東市）

深酒をとめる人なしおでん酒

新年の夢を碎いて大地震

国本 絃司（豊後高田市）

寄り合つて老の気合や餅を搗く

炬燵の間雑談をしてお茶啜り

久保 英代（宇佐市）

窓の外切りしみかんにメジロ二羽

初雪や柿をついばむ鳥の群

伊林 貴久江（臼杵市）

産声のあがる産院去年今年

父と子のけんけんばあや風光る

岸川 房子（杵築市）

健啖の一息入るる七日粥

完歩する心に生る恵方道

河野 二三華（宇佐市）

初明り座敷一瞬おごそかに
姉と電話余生語りて初笑

岩本 文子（津久見市）

冬^{ふゆ}没^{いり}日^ひきらめく波にたちつくす
雪の道さし出される手ことわれず

ゆずりは（中津市）

べべんこに健やかなれと冬構
老木の白梅咲けよ母の忌に

小梅（大分市）

山茶花のいつまで朱き花の塵
あらたまの卓も囲めず地震^{ない}に泣く

中村 祥子（豊後大野市）

浄蓮の白き落下に神やどる

惜しみなく晩夏を告げる法師蟬

重光 哲雄（国東市）

悔いつのる父を見上ぐる月天心
言ひたきと言はず落ちしか寒椿

長畑 孝典（大分市）



牡丹鍋山の気配を残しつつ
熱爛や九重連山夢の中

吉松 福子（大分市）

切つ先を斜めに揃へ飾松
火漢^{ひやう}の燎原に野火放ちけり

西方 浄子（大分市）

おほかたの事は許せる柚子湯かな
丁寧^{ていねい}に生きる晩節竜の玉

小田 祥子（大分市）

鳥罨に赤い実のある冬田かな
竹竿に色物すこし春隣

工藤 いつお（日出町）

若葉にも十色の彩りありにけり

法師蟬今日を限りと鳴きとおす

石井 紀久子（豊後高田市）

空元^{からげんき}氣孫とかけっこ老いの春
年明けや今年目指すはアレにアレ

高野 國臣（大分市）

煮こごりに過ぎし日の嘘映りをり
青墨の空短日の街に落つ

篠原 名草 (大分市)

侘助の花白きが故に今朝の雪
晴やかに明けし新春に地震能登

山形 フジエ (大分市)

悴みし吾の手を温湯に夢の疵^は
新涼や草刈機の音かるくなる

佐藤 芙美子 (由布市)

杉木立葉先枯れ色村静か
日足伸び夕焼け空が村被^{おちう}

武吉 慶子 (中津市)

梅の香の漂ふ雑木林かな
スクワット五十と決めて梅雨滂沱

平山 正信 (日出町)

着ぶくれてぬいぐるみとなる三世代
四日朝デイケアのコーヒー旨し

植木 修子 (大分市)

東雲のもう消えており寒卵
朝湯して無罪放免ちゃんちゃんこ

野井 博子 (別府市)

外灯に雪片の舞ふバレリーナ
居酒屋の路地で朝餉の初雀

宮原 公子 (日田市)

道中の事無き願ふ秋ツアー
雑煮椀十二となりて孫の声

坂本 テル子 (日田市)

春風にささら波寄る別府湾
余り花苗^{なえ}おすそ分けすと電話くる

豊世子 (大分市)

母は母知らず百年春に逝く
幼なき日熱出せば母リングゴ剥く

石井 明美 (津久見市)

朝の間に妻と交わすや屠蘇の酔
さくさくと靴跡続く今朝の霜

藤原 和生 (日田市)



佳作

初風呂や大いなる夢うすうすと
冴え冴えと闇を照らして月冴ゆる

押谷 隆（別府市）

お雑煮のやつと二つが納まりぬ
水仙や六十余年住みなせる

西田 悦子（日出町）

老松の歳旦の影明かにて
木の葉髪幸の足りたる紅を引く

佐藤 佳津（津久見市）

寒風は糧なりいりこ乾きをり
春風やみずすと雑魚の詩生る

松下 章子（佐伯市）

ストーブの薬缶に滾る音長閑
飼猫に妻言うことの優しかり

芦刈 成雄（佐伯市）

唐臼のひびく皿山冬に入る
ままならぬ米寿の歩み春を待つ

緒方 俊子（大分市）

星合ひや逢へない人に逢ひたき日
朔風にコロコロ落葉徒競走

工藤 昌子（臼杵市）

佳作

佳作

産土の杜の番人寒鴉
小康の夫と分けあふ蜜柑かな

二村 久美（津久見市）

崑寿となり賀状納めに龍を描く
亡き母のちぎり絵見れば福寿草

尾方 ナツ子（日出町）

初鏡とし相応の笑顔かな
着ぶくれて節約モードTV見る

あらら（宇佐市）

ゆくりなく冬蝶に逢ふ峠道
風花や青春ときに淋しさも

為成 央子（豊後高田市）

被災地に届く吉報春隣
俳諧は長寿の秘訣明けの春

尾崎 陽子（宇佐市）

書店待ち茶店待ちする積雪日
毛糸帽白き房先遊ぶ空

和ゐ 由里（宇佐市）

難病の夫を看取りて寒満月
寒満月願ひは一つだけにする

目原 千鳥（大分市）

老・老の介護睦まじ簾の椅子
新涼に後期幸齡三姉妹

柳井 美恵子（大分市）

大寒の雨の水輪の中に雨
可憐なるミニ門松に台座敷く

後藤 千恵子（大分市）

オカリナの指先はねる小春かな
立春の靴べらいらぬスニーカー

中村 宏枝（中津市）

湯けむりのやつれてをりし残暑かな
近況も述べて名無しの賀状かな

生野 久（別府市）

早逝の子の形見着て暖を取る
桜咲けば帰り来しかな亡き吾子よ

奥野 やよい（佐伯市）

緑蔭に揃ゐの帽子置かれけり
摘草や女の髪の毛の匂ひをり

小野 鶴子（大分市）

初明り夢の中にて笑む亡夫
紫陽花や一人上手に暮らしをり

濱野 由美子（大分市）

黄泉路えと友送る日や雪晴るる
白い花初嵐とや椿咲く

松田 君子（大分市）

初夢は大当りにて目が覚めた
蠟梅や持ち物多き登校日

かをる（大分市）

百歳のパワーいただき青き踏む
寒満月あげて八十路の一人めし

阿南 絹枝（大分市）



水仙に負けじと香をる梅の花
朝露は命の水と雨蛙

渡邊 哲雄（豊後大野市）

元朝の母はましろき割烹着
辛夷咲く光に白のグラデーション

手嶋 信子（国東市）

蠟梅や重き風のペダルふむ
竿を折る父の背中に月瀧

是澤 勝行（津久見市）

八十路春オオタニ君に夢中です
春の星宇宙葬とかいう話

鹿野 登美子（大分市）

うそ寒や無言電話の切れる音
買初や明るき色の紅一つ

三重野 美奈子（杵築市）

少年の返事「うん」のみ夏の雲
小六の受験子の涙に涙

本郷 康子（大分市）

被災地へ気持ちで出来るドラえもん
お年玉諭吉にぎりてありがとう

栗林 典子（杵築市）

柿食へばすてた古里恋いしきや
恙無く暮す喜び枇杷の花

財前 春子（杵築市）

年重ね変らぬ笑顔ほつとする

松川 眞代（杵築市）

風花や角打ちの話まとまる
凍蝶や過去に一つの忘れもの

首藤 加代（大分市）

元旦や団らん吹飛ぶ大惨事
立春や縄張り競ふ鳶からす

見良津 玲子（大分市）

春の日や屈伸ゆるく八十路かな
群れ雀稲穂の波へダイビング

榊原 妙子（大分市）

一日の白さしばめる花木権

弟の愚直に生きて竜の玉

香奈（大分市）

酔屋の坂塩屋の坂や椿落つ

五線譜のおたまじゃくし踊りけり

濱田 玲子（津久見市）

小春日や百歳の母にこにこと

マフラーを粹に着こなす若き彼

時枝 則子（宇佐市）

湯つぽに入れ香りがいいゆず湯かな

縁側で日だまり背を向け日向ぼっこ

高橋 恵美子（大分市）

大声をおでん出来たと夕食に

気分良いコタツぬくぬくああ寒い

宮本 タエ子（大分市）

一日のりハビリ終えて帰宅かな

政治家の不正資金闇バイト

吉良 久功（大分市）

山粧う秋の紅葉すばる道

木枯しの木の葉舞い散る寒さ知る

磯貝 脛子（大分市）

ぽつかばか寒さ取り込むおでん鍋

庭掃除椎の実おち葉に乗っていた

安藤 冬（大分市）

稲穂が頭べを下げて秋日和

彼岸花季節が来ると咲きそう

加藤 ヨシコ（大分市）

焼き芋を食べてびっくり舌焼いた

うとうとと日向ぼっこで本眠り

金崎 哲也（大分市）

いつの間か年だけ取って知恵たらず

百年ださて今年より一年生

👑 江嶋 安生（大分市）

🏆 奨励賞（男性最高齢者・100歳）

※

山眠る一枝たおる寒椿

熊谷 直子（大分市）

乾盃と我が身誉めつつ晦日酒

霜凍 俊彦（大分市）

阿蘇一望のここに着地や草の絮

冬至湯や二の腕太き旅の僧

櫻井 さくらこ（大分市）

誇りたる空き家の隅の寒椿

松過ぎのコートに冴ゆテニスの音

亜都（大分市）

花は葉に風に移ろふ八十路坂

二人居に三分なるおでん鍋

野田 絹子（大分市）

霜の朝深呼吸して坂上る

豊後梅（大分市）

まな板の乾く間の無し暮早し

本殿遠く着膨れの列続く

木下 恕子（大分市）

雨粒を乗せて落葉の運ばるる

熊の墓てふバス停に冬入日

いとう 鴫（大分市）

おほらかに我なりの道姥桜

朝夕に足裏のツボ梅ひらく

久富 豊治（大分市）

気は二十思^はいかなわぬ老を知る

年明けた心新たに一歩づつ

渡辺 利男（佐伯市）

地下足袋の老は裏方どんど焼

倒れても空へ向きたり能登の梅

佐藤 一男（大分市）

結界の青竹ゆるる初御空

雅楽流るる神苑の羽拔鳥

晋二（大分市）

古き家の注連飾して若やぎぬ

寒椿小さき鉢に紅七つ

勝子（大分市）

寒き朝気合を入れてデイへ行く
あおぎ見るキラキラ光る月のはな

迫田 豊子（杵築市）

姫岳やかすりもようの山櫻
空の青山のみどりに心安らぐ

亀井 尋代（臼杵市）

有情無情うねりのごとく今年今年
みくじは大吉嬰兒に会ふ七日

山田 珠留（大分市）

寒ぶり復興の声能登の朝
合せ鏡アバターが叫ぶ旬の味

植木 庸夫（大分市）

嘘ひとつ見透かされたり冬の月
一幕の影絵始まる大夕焼

佐志原 たま（大分市）

月に問ふ彼の世の姑も元氣かと
久方に三代揃ふ松の内

江口 美佐子（宇佐市）

枯尾花女盛りと言へぬけど
母の顔まあるく描くや春初め

吉本 栄子（津久見市）

デイの朝友の編みたる衿巻を
万両が深江色でたれさがり

穴井 政枝（日田市）

アンニユイとしやれてもみたき朧かな
児ら歌う文語の歌詞や鯉幟

雨宮 恵二（中津市）

一人分土鍋に香る七日粥
御正忌や米寿の今を生かされて

岡 孝子（大分市）

短針を抜く秒針や暮早し
旅人もどんど餅にて持て成さる

今宮 嘉子（大分市）

寝間着ではしゃぐ子ら遠き遠き日々
箱庭で遊んでくれし祖父の髭

森 明以子（日田市）

小雪舞う蒲団の中で本をよむ
庭先の桶の中には厚氷

穴井 昭宏 (日田市)

米寿まで生かされました感謝する
大寒で昨夜の雪は大雪で

穴井 隼己 (日田市)

荒野なる能登の大地に芽吹きあれ
震るるや産声あげしはるに会う

風子 (大分市)

砲弾の削りし大地冬の蝶
初雀隣は三年越す空家

梅山 忠信 (日田市)

すらすらと渋柿剥く手黒い皺
卒寿古希女二人の卵酒

藤本 和枝 (日田市)

遠山の二重三重なる雪衣
正月や残り香のシャツ共に有り

杉野 郁子 (日田市)

お彼岸や帰りに義姉^{あね}のお漬物
いぬふぐり亡き妻求む婿がいる

高村 容子 (日田市)

常と変らぬ諸々や去年今年
公園の緑少しの紅葉かな

後藤 和子 (日田市)

秋日和おさらい会のすまし顔
義母送る小さい秋を見つけし日

栗野 眞弓 (日田市)

バイク止め休む仲間や秋の声
初市や杉の丸太のふくふくと

小浦 絹子 (日田市)

柿熟るる掃き納めの庭灯しけり
寒林に光とどきて歩の弾む

井上 睦子 (日田市)

水張りし山田に月のおぼれけり
音荒く波うつ川は梅雨出水

吉田 榮津子 (日田市)



凜として霧たちのぼる八面山

後藤 俊美（竹田市）

降りしきる雪の中行く児童の列

来年はおまえに会えるかホーホケキョ

ニユーシニア（中津市）



微笑^{みしょうぶつ}仏孫^{ぶつ}といただく蕪汁

猫伸ぶる吾の腰も伸す日向ぼこ

祐佳（大分市）

宵闇の庭先あさる鹿の影

獵友のお供は獵犬^{いぬ}より空飛ぶドローン

小袋 嘉子（日田市）

寒の入り待ってましたと餅をつく

敬老日大好きだよと孫が云ふ

村上 睦美（臼杵市）

犬とゐていつものベンチ冬温し

山茶花の白好きだった母思う

矢野 留美子（臼杵市）

龍年に生まれし子らに幸願ふ

こだまする削岩機の音柿二つ

松本 スミ子（津久見市）

追伸は熊に用心秋便り

年上の人に恋して夕霧忌

四浦 鳩（津久見市）

三ヶ日気も沈みゆく地震^{なみ}の来て

屋の竹藪向う初日の出

後藤 恵（臼杵市）

ストーブを囲み古い先話しかな

孫来る孫の両手に寒たまご

吉川 時美（臼杵市）

ご先祖に鏡餅あげ経を読む

初日の出豊後二見に並びけり

亀井 ゆかり（臼杵市）

秋風を追づれにして夫婦^{つま}帰る

先人の皆みなさまへ栗ごはん

廣瀬 千代子（臼杵市）



老いてなおすること数多初日記

午後八時ジャズかロックか虫時雨

後藤 勝利 (豊後大野市)

スイスより山の絵はがき秋深む

寒卵卒寿の夫にかけご飯

桑原 みよ香 (佐伯市)

一人居のひとりの部屋のシクラメン

夏休み孫と二人のレストラン

森田 じゅん胡 (佐伯市)

筑後路や山の移ろい秋の暮

風鈴の音や七色虹の橋

嶋津 富子 (日田市)

甲子園笑い泣き舞う夏遠し

佐々木 幸香 (豊後大野市)

つらつらと蒼ふくらむ雪椿

吉原 美津子 (豊後高田市)

老人に笑福来る春を待つ

コロナ明け家族集まり笑う席

高畠 葉月 (大分市)

雨の中紫陽花深し鮮やかに

徳永 雅子 (大分市)

桜舞い鳥居くぐりし宮参り

吉田 ユリ子 (大分市)

ひなまつり誕生日の日嬉しき日

中洲 タツ (大分市)

梅の花今日も一輪又明日も一輪

若杉 杏子 (大分市)

彼岸花や家族で楽しむ旅行先

佐々木 ユキ子 (大分市)

にがうりやこねてつまみにビール飲む

岡部 恵美子 (大分市)

ありがたやお参りして目が覚める

西山 千代子 (大分市)

竹の葉に七夕飾りの美しかな

三宮 ミヤ子 (大分市)

初詣うで心新たに身も締まる

内田 常 (大分市)

秋の夜に空に満月きれいだな

和田 征子 (大分市)

愛犬と歩く山道色盛りなり

奥野 恵津子 (大分市)

菜の花のまた訪れし誕生日

高橋 ヤスコ (大分市)

虫の声聞こえてくるよ月の夜

橋本 キヨ子 (大分市)

ほわほわと七輪にのせ焼きイモだ

大野 睦子 (大分市)

パックして顔が生き生き若がり

安元 敏子 (大分市)

あじさいの心を読むか雨の中

岩崎 早美 (大分市)

裏庭にひそかに咲く彼岸花

山蔭 ムツ子 (大分市)

願い込めねぶた祭りに子らが舞う

下田 サエ子 (大分市)

初夏を告ぐアヤメ一輪卓上に

脇坂 富士子 (大分市)

久しぶりゴーヤチャンプルよく食べた

高野 節子 (大分市)

寒さから脱皮したいよ梅の花

山口 和子 (大分市)

秋の山パラグライダーで下る山

樫村 敦 (大分市)



くれないに染まりし里に白い煙

佐藤 京二（大分市）

名月やすすきの原に虫すだく

佐藤 香代子（大分市）

丸い月すすきの向こうに兎とぶ

森重 絹子（大分市）

空青し庭の紅葉が色付いた

秦 ツヤ子（大分市）

彼岸花月に照らされ赤青と

玉利 佳史恵（大分市）

お月さん帰ってきたかまた逢えた

大津留 俊文（大分市）

大寒の寒さ身にしむ雪げしき

中森 マスミ（大分市）

あたたかな友との初詣春うらら

河原 泰子（大分市）

我庭に柿の実数個楽しみだ

古城 雅子（大分市）

銀杏や茶わん蒸しから顔出して

利光 ハル子（大分市）

窓際のススキがそよと風にゆれ

岩瀬 秀子（大分市）

ひなまつり娘のしあわせ思い今年も

丹羽 志久子（大分市）

美しい花と幸福をみんなに

小野 和子（大分市）

虫の声たのしい声で歌ってる

福田 廣子（大分市）

あまの川星を見ながら思い出す君

中本 小枝子（大分市）

冬がきた寒さ感じておでんかな

猪原 ハツコ（大分市）

さくらさく花もかわいい春が来る

藤原 シマ子 (大分市)

初春の神社お参り幸せなり

三浦 静子 (大分市)

菜の花のにおいに誘われ鳥のさえずり

吉山 静江 (大分市)

あじさいよ雨にも負けずにしつかり者だ

葛城 仁 (大分市)

夕食後夜空を見れば満天の星

豊東 キヨ子 (大分市)

デイに来て友達できた嬉しいよ

大嶋 夏子 (大分市)

こいのぼりあげてたのしやははのかお

関 美保子 (大分市)

こいのぼりああ恋のぼり恋のぼり

本多 誠子 (大分市)

ご馳走を待つ夜芋名月かな

朝来野 幸子 (大分市)

美味しそう双子の茄子珍しい

田原 悦子 (大分市)

お月見や自宅の窓でうつとりと

安東 恵子 (大分市)

息子が好き我も好き家の柿

安西 レイ (大分市)

白壁に朝日かがやき若芽待つ

友成 アキエ (大分市)

梅の花香りと共にはこんでね

小野 隆子 (大分市)

月を見て母を思う懐かしく

松伊 芳恵 (大分市)

国民年金やつとも食えぬ国の策
子や孫と除夜の鐘聞き初詣

牧 常弘（臼杵市）

米寿招雪の鳥飛び子等のもとへ

篠沢 美智子（別府市）

俳句づくりを一步進めるために

○「俳句は季題の詩」とは高浜虚子の言葉。

日本には四季があり、春夏秋冬それぞれの花が咲き、風が吹き、雨が降ります。一句の中では季語が最も重要な要素になります。

○歳時記を友だちにしましょう。

歳時記には素敵な言葉が沢山載っています。解説を読むと、その意味に改めて気づくことが多いものです。

また、例句は先人の名作ばかりです。声に出して読むことで、俳句のリズムが身に付きます。

○俳句は引き算で考えましょう。

「この句は説明になっていますね」と言われることがあります。

俳句は世界一短い詩なので多くを語れません。表現したい中心は何なのかを絞り込み、推敲しましょう。

○「俳句以前」を大切にしましょう。

俳句は人生を豊かにします。自然を大切にし、毎日を丁寧に過ごしたいものです。

大分県俳句連盟 阿部 王一



「大分県俳句連盟の紹介」《会長 吉原白天》

1. 目的

本会は昭和46年に設立され、俳句文学の向上と詩情豊かな人材育成に努めています。

2. 主な活動

(1) 毎年11月に「大分県俳句大会」を開催します。

① 当日句会の部

- ・令和6年11月24日(日) 10:00～16:00
- ・J:COM ホルトホール大分 3階大会議室
- 参加・投句料 1,500円

② 募集句の部

- ・募集期間 6月1日(土)～8月31日(土)
- ・投句料 2句1組(何組でも可能) 1組:1,000円

③ 新人賞の設定

- ・新人会員から作品(20句)募集し優秀作品を表彰します。

④ 「俳連年鑑・一人二句集」の発行(本代 2,000円)

会員から自撰2句の応募を受け、本として発行配布しています。

(2) 小中学生俳句大会の開催

募集期間 7月1日(月)～9月13日(金)

3. 会員募集中

- ・年会費 2,000円
- ・入会資格に制限はありません。
- ・問い合わせは下記事務局へお願いいたします。

事務局 〒870-1185

大分市ふじが丘西1丁目13番8号 佐藤一男 方

電話 090-2582-1272

川柳の部

課題「笑う」

審査協力 大分県番傘川柳連合会

	応募者数	作品数
	(人)	(点)
川柳	242	462

川柳全体評

楽しみにしていた句が届きました。

開けば次々と出てくる名句。なんと二四二名、四六二句に圧倒されながらも選考へ。中八・下六の多さに愕然。自己満足の句、課題を全く無視した句は論外です。

川柳に課題は付きもの、課題を使う方法も詠み込む方法も、どちらも許されています。

川柳は他人に読まれてこそ川柳。「なるほど」があればいいのです。まずは身の回りに視点を置いた作品を期待しております。

大分県番傘川柳連合会

幹事長 高木 豊柳

飯干 美恵子 選

特 選

ありがとう笑顔が魔法の杖になる

大下 昭子（大分市）

〈評〉「魔法の杖」とは鮮やかな詠みです。重苦しい息の詰まる様な場の空気を
変えるのは笑顔でしょう。これぞ「魔法」です。「ありがとう」を笑顔に
言える人生のあなたは素晴らしいですね。特選に相応しい一行詩でした。

入選

アルバム笑顔弾ける青き春

瑠璃（宇佐市）

〈評〉誰れも経験した青春。アルバムの中で弾ける白い歯。初恋のあの時。老いることなく今も輝くあなたの共感を呼ぶ句に出会いました。

入選

もの忘れ人生の午後泣き笑い

吹田 満子（佐伯市）

〈評〉何を探しているのか、それすら忘れる日の恐怖。人生の今を午後に例えて終章へ向う日々を泣き笑いと見事に詠まれた楽しい句でした。

入選

笑い合うシワの奥には闘志あり

薄田 ミキ（大分市）

〈評〉時には社交辞令。顔で笑って心は見せぬ。「シワ」に闘志満々とは見事な言い回しようです。現代の生き方を言い当てている句でした。

田中 和彦 選

特 選

パネル越し笑顔満開面会日

ニューシニア（中津市）

〔評〕居なくては困る最愛の人、やっと会える喜び、かわす言葉に勇気をもらおう。
切ない思いがひしひしと伝わります。テンポのいいリズム、簡潔な表現
に感銘。

入選

おはようの笑顔弾ける旗振日

深田 鈴子（大分市）

〈評〉

希望の春、ピカピカのランドセル、やさしく見守るボランティアの笑顔。子や孫の幸せを願う一句に感動。

入選

笑うこと忘れた拉致の永い冬

佐野 弘一（大分市）

〈評〉

我が子との再会を願う家族の切ない気持ち、一日も早い解決を願う作者の心のつぶやきに共感。

入選

コロナ癒え笑顔で向かう趣味の会

いぶき（杵築市）

〈評〉

思いもつかぬ出来事、やっと日常を取り戻し、なつかしい友に会える喜び。貴重な経験、楽しさを大らかに詠みこんでいます。

高木 豊柳 選

特 選

合格の笑顔が跳ねる孫の春

大野 浜子（白杵市）

〈評〉当事者も家族も耐えた一年。やっと迎えた受験の日。今か今かと待つ合

格発表。重苦しい空気を変えた孫の歓喜の声。飛び跳ねる孫につられる家族。おめでとうの言葉に乗った笑顔、笑顔が目には浮かなくなります。

入選

前を向き笑いよ戻れ被災の地

小野 孝子（豊後大野市）

〈評〉

津波に地すべり、大火に消えた街。元旦の惨事に涙が止まりません。青いシートに降る氷雨。「笑いよ戻れ」そして前へ。

入選

子の愚痴も笑顔で包む母がいる

みつこ（佐伯市）

〈評〉

子の虐待、嫌なニュースも流れる昨今。子の愚痴を笑顔で包む母がいる。子育ての原点が愛であることに気付くと、日本の母へ。

入選

反抗期終わったらいい子が笑う

若杉 幹夫（大分市）

〈評〉

壁に残る穴。一度は通る反抗期。どこの家にもある話し。突然に変わる笑顔にホッとする家族。長い冬が終わりました。

笑点の落語家ふざけ呵か呵か大賞
はしやぐ子の脛すねにくつつく草虱くさじしむ

柴田 昭三郎 (大分市)

老の日々二人で介護の助け合い
縁側でシップ貼りあう老二人

足立 房子 (豊後大野市)

笑い声絶えない家の窓明り
冗談の上手い店主に客笑い

牧 常弘 (臼杵市)

福が来たあなたの笑顔に救われる
よく笑う家族はいつも幸よ

田原 康行 (別府市)

飼不足熊も果てには笑いだす
のし袋何度包んだ泣き笑い

松田 みちる (玖珠町)

よく笑う茶の間に温い風が吹く
夕飯の腹ペコ同志が笑ってる

足立 岩男 (大分市)

残生ざんせいはおもしろがって生きていこ
もう一度ふり返っては声に出そ

江田 通徳 (日田市)

グレタ座す笑みに切なさリーダーたちよ
笑えないニユースが多い日は登る

佐藤 文人 (由布市)

足るを知るゆとり笑顔の夫婦箸
他人ひと事ことと笑い飛ばせぬ物忘れ

神徳 和雄 (津久見市)

笑いヨガちよつと無理してワッハッハ
赤ん坊皆を笑顔にする笑顔

外園 福子 (中津市)

デコピンで笑う大谷移籍の日
年寄りが唯一笑う十五日

央佐おさ充み (宇佐市)

孫笑えみう迎えの親に差し出す手
笑うかぶ偶数月の十五日

傘寿 (宇佐市)



モチを食べ昔の友とバカ笑い
笑いつつ新しい年越えて行け

原田 洋治郎（豊後大野市）

電話口マスク外して大笑い
寄せ鍋や福福福と笑い合う

田中 英俊（宇佐市）

年賀状孫の写真に初笑い
初滑りうっかり尻もち孫わらい

日名子 隆（大分市）

思い切り笑う夢見て苦笑い
歳を取るほどに「笑う」が少なかり

溝部 明夫（臼杵市）

生まれ来し^こ嬰兒^{ほの}仄かに笑み浮かべ
元日の笑顔消え行く大地震

舩谷 博正（佐伯市）

孫帰省笑う毎日健康長寿
見合いして笑顔がいいね共白髪

宗方 正弘（大分市）



ありがたい笑顔が魔法の杖になる
福笑いピカソの横に飾りたい

大下 昭子（大分市）

お正月初曾孫来て福笑い
くよくよと悩まず笑う人生を

矢野 節子（大分市）

朝焼けに透けし木立がふと笑顔
年明けて孫等に逢えし目尻落つ

衛藤 幸也（豊後大野市）

笑う癪災い避ける生きる知恵
仲直り母の笑顔は身にしてみる

後藤 祐二（大分市）

いつからか泣くのが嫌で笑う癪
どん底も愛娘の笑顔に助けられ

木元 俊樹（杵築市）

日本から拍手の笑顔二刀流
五年振り家族揃って福笑い

高木 遊楽（大分市）



追ひ抜かれ孫の真顔に笑う膝
山笑い孫もピカピカランドセル

淀 晋一郎（大分市）

笑う顔老いの道にも必需品
あざ笑う罰当たりさん自分です

井上 のり子（中津市）

阿修羅像かすかな笑みに一目惚れ
孫が来て写真の義父も笑顔かな

神田 知子（豊後大野市）

草もちを一口食べて祖母笑う
笑い声川辺のあぜに彼岸花

古城 千佐子（国東市）

同窓会頼りになるのは名札だけ
年寄りの自慢話は孫・葉

シニアのあっこちゃん（宇佐市）

ほっこりと心笑顔のあなた好き
クラス会昔話に大笑い

重光 邦子（国東市）

選挙戦作り笑顔で手を握る
好物を見せただけでも笑顔する

岩屋 イツ子（別府市）

着飾って笑顔弾ける七五三
モナ・リザに微笑の真意問うて見る

油布 忠士（竹田市）

いつまでも笑顔絶やさず老いを生く
赤いバラ胸に笑顔の入園式

加藤 京子（豊後大野市）

施設から笑顔の年賀わが夫
ひ孫達家中走り良い笑顔

穴見 ヒデ子（豊後大野市）

フロントの孫に笑顔で迎えられ
吉四六のとんち話に児等笑う

遠入 和子（中津市）

マグロ釣る笑い止まらぬ二百キロ
家族中笑って過ごし福来る

槌谷 啓輔（豊後高田市）

とはあれど共に白髪と笑い皺
大笑い家内が見せる喉ちんこ

浜崎 千六（国東市）

佳作

集まれば笑うつば知る友の知恵
笑い声響く家族のあたたかさ

笠置 房江（国東市）

佳作

人生を素敵に刻む笑いジワ
老春はボケも笑って恋もする

泊 妙子（大分市）

佳作

被災地の愁い和らぐ児の笑顔
一步退く自負に笑顔がついてくる

手島 俊行（日田市）

佳作

孫たちの元氣遊に泣き笑い
門松や福笑神通してや

江戸 文武（由布市）

むかし出来笑いエクボも今じゃシワ
笑えないパパにもありそ裏金が

夢 豊（大分市）

佳作

祈り事多くて神も苦笑い
笑顔こそ何より勝る処方箋

まり子（別府市）

低体重花もつばみに孫笑う
被災地にキックバックして笑い顔

狩生 カヨ子（佐伯市）

其の話し笑い集めはぐらかす
笑いすぎ入れ歯飛ばして笑われた

深田 博文（竹田市）

手紙って笑いながらも暖かい
母笑う何より増して嬉しい日

油布 晃（竹田市）

ひ孫より笑顔で習う流行語
米寿にて笑って誤魔化す実の歳

衛藤 義治（豊後大野市）

笑う人元氣の源振り撒くる
お笑いひとぐくは長寿の素の一役ひとぐくに

荘田 泰代（臼杵市）

能登の鬼笑うつもりが涙顔
大谷も藤井も笑う自民党

狩生 一生（佐伯市）

生娘の所作にあきれてつい笑う
声かけを広げて皆の笑顔あり

河野 光子（杵築市）

四世代笑いあふれる福来たり
米寿越え笑ってにごす勘違い

足立 孝子（豊後大野市）

十億円積んで笑った夢を見た
俺の夢笑う奴らよ夢あるか

森下 菊男（豊後大野市）

ほほ笑に心ひかれて共白髪
遠くなるカルタすごろく福笑い

渡邊 哲雄（豊後大野市）

笑い声青春謳歌とめどなし
車いす押す手優しく妻の笑み

割石 哲（中津市）

いいじゃない箸が落ちてても笑おうよ
素敵だね心和ます笑い皺

矢野 肇（大分市）

独居の身微笑み返し期待する
大笑い口元隠す癖何処

ヤンリン（日出町）

草の絮一人暮しも夢を追ふ
路地裏に昭和のくらし助け合ひ

みつ代（津久見市）

今年こそ笑う門から豆を打つ
笑えないこんな時代に読み聞かせ

木村 説子（国東市）

泣きながら生まれ笑顔で最期の日
終活は笑顔で扉閉じる旅

後藤 明彦（宇佐市）

良薬は老二人には笑うこと
笑う時かくせぬものは顔のしわ

加藤 喜久子（津久見市）





在りし日の遺影の笑顔また涙
アルバム笑顔弾ける青き春

瑠璃 (宇佐市)

孫の描く爺の似顔は福笑い
年六度笑みがこぼれる十五日

藤田 公明 (津久見市)

じいちゃんの入歯外れて孫笑う
皆健康笑顔の家族感謝して

佐藤 廣 (豊後大野市)

優勝の笑顔やAREと言う魔法
この人の笑顔が好きで連れ添ひぬ

あこぼん (宇佐市)

弱音など吐かない母の笑い皺
病床の母は無言の笑顔見す

加藤 賢二 (豊後大野市)

腹の底笑える世界きつとくる
健康は家族団欒皆笑顔

川原口 晶 (中津市)



夕立におっかけられてるハイヒール
人間は蟻のスタイル見られない

三村 ミヨ子 (宇佐市)

きつと来る笑顔に運はついて来る
泣くよりも笑顔が好きと福の神

藤原 美智代 (別府市)

笑う度ガンはどんどん消えていく
思い出すクラス会での彼の笑み

福澤 廣明 (中津市)

日に百笑口角あげて福を呼ぶ
抗加齢サプリは妻のえびす顔

山本 泰光 (国東市)

失敗を笑って許す太っ腹
前を向き笑いよ戻れ被災の地

小野 孝子 (豊後大野市)

ペタンクの笑い弾ける今日も行く
聞こえない愛想笑いで会話する

穴井 和子 (玖珠町)





ワッハッハ笑いが力ガン予防
おはようの笑顔弾ける旗振り日

深田 鈴子 (大分市)



看護師の笑顔が救い手術台
幸せが溢れる笑顔絶えぬ家

稲留 俊信 (中津市)

初詣で笑まうおたふく吾を呑む
幼児の笑顔に夢は退りなし

穴井 幸雄 (日田市)

転た寝^{うたね}で昼夜間違え苦笑い
笑い皺^{しわ}浮かべて這る介護浴

松本 己代子 (中津市)

ストレスを笑いに変えて老いを行く
笑い消え怯える日々の戦下の子

大谷 富子 (国東市)

早いもの孫の成人類緩む
泣き笑い指環も瘦せた五十年

村上 伴一 (大分市)



笑う顔スウイングしているのどちんこ
口角をあげて鏡とにらめっこ

若原 里美 (別府市)

笑うことほんとに少ない年の明け
政界の思考の低さ笑えない

荏隈 伸一 (日田市)

初孫を笑わすつもりが笑わされ
元旦にテレビラジオも笑いなし

貞清 信 (日田市)

敬老の心にひそむおもいやり
若き日の夢見る心今一度

高倉 貴司 (日田市)

ほほ笑みを足して話を丸くする
知恵比べ勝ったカラスの高笑い

村上 伸男 (別府市)

挑みつづけるプーチンえ山笑う

湖人 (津久見市)



好々爺笑つて生きて待つ天寿
何よりも帰省の子らの笑い声

後藤 正人 (大分市)

笑うこと無くて鏡にあかんべえ
嘘や金知らぬ赤子の笑い声

曾宮 点 (佐伯市)

延命を笑つて暮らす末期ガン
念仏の和尚が妻の名をみたび

木村 弘治 (国東市)

人間の特権ですよ福笑い
大笑いワンマンショウの腹話術

橋本 修一 (津久見市)



百歳の歴史きざんだ笑い皺
笑うこと忘れた拉致の永い冬

佐野 弘一 (大分市)

笑福の世界平和の未来待つ
ウクライナ子供の笑顔に影を見る

嶋崎 豊信 (日田市)

手鏡の口角あげて笑う顔
御年玉飛んで来る子に笑み重ね

佐藤 都子 (国東市)

不器用に送る人生泣き笑う
親父ギャグ時代おくれと皆笑う

大谷 和幸 (国東市)

夢かける赤児のあくび初笑い
心から笑える世の中祈る春

高治 保子 (佐伯市)

笑えない弱る足腰鈍る脳
みんな待つ世界こぞって笑える日

角淵 春美 (中津市)

ニュース見て笑うどころか涙出る
ゴール見え笑って生きる道さがす

池口 澄子 (中津市)

笑いヨガ大口開けてあはははははは
手をつなぎ泣いて笑って五十年

秋吉 民江 (中津市)

笑うまい老いたる友のそのしぐさ
笑つても声のひびきで本音みる

井上 榮（臼杵市）

笑顔にも悲しさ辛さ見え隠れ
巢立つ子を笑顔で送り涙する

森田 さとみ（大分市）

物さがし何をか忘れ笑いだす
初笑い友とのダジャレ元気で

井上 久美子（臼杵市）

笑ったね正月囲んだ丸テーブル
笑いたい世界の皆で手をつなぎ

熊谷 和子（日田市）

笑顔咲く食事楽しむサロン会
楽しみは孫の笑顔と片言葉

小野 勝子（豊後大野市）

孫ひ孫抱いて米寿の福笑い
逝く義姉あねに着替の小紋に笑顔添そえる

千恵子（津久見市）



笑いヨガ健康めざしウソ笑い
なぜ笑う服裏がえし我れしらず

樋口 吉典（日田市）

もの忘れ人生の午後泣き笑い
シルバーは美人薄命無関係

吹田 満子（佐伯市）

笑いある人生こそが生きる道
毎日を笑顔ですこせる幸せを

梶原 公夫（日田市）

物価高笑えないのよ正月も
蟬梅の香り豊かに笑み誘う

須賀本 シノブ（国東市）

初日の出山頂までに膝笑う
孫達の年の始めの笑い声

飯名 丈夫（国東市）

ニュース伝えるアナウンサーに笑顔なく
ズボンチャック皮をくわえて動かない

深藏 信俊（国東市）

朝おきて一日笑顔とおもうだけ
おこるより笑ってすこせば気持よし

小野 祥三（国東市）

一日を大事に生きて良き笑い
来る年を笑える年に龍昇る

山本 昇治（国東市）

あんこもち孫の手からおはぎがで
お年玉孫よりもらう何買おう

猪下 スギ子（国東市）

今年こそ元気で笑う一年に
お正月喜ぶ孫にお年玉

谷 政宣（国東市）

二才児のおしゃまな仕ぐさに大笑い
福来ると信じて笑顔で生きている

安永 陽子（国東市）

腹筋を使って笑いすぐトイレ
老いの坂笑い転げてまた登る

ばばりん（別府市）



子の愚痴も笑顔で包む母がいる
家族の和母の笑顔は子の宝

みつこ（佐伯市）

夫が逝き笑える日までもうちよつと
おだんごつまみ妻の遺影がウフと笑み

阿部 紀代香（杵築市）

心から笑える明日に託す夢
苦の坂も笑顔で越える共白髪

吉井 容子（国東市）

日々楽し心残りは笑いジワ
高笑い空しくひびく戦の地

後藤 和子（日出町）

ヘルパさん笑顔で手かす杖とやら
孫たちが爺の呑むまね大笑い

三浦 千秋（豊後大野市）

笑い顔家庭円満長寿法

三代 君子（大分市）

しかめっ面^{つら}孫には優しえびす顔
笑ってます一日十笑長寿です

三代 洋一（大分市）

ひ孫の百面相は笑い種
夫登り吉四六さんの十八番^{はこ}です

宇薄 晴美（臼杵市）

ボケ二人他人が見たら漫才師
看護師の笑顔に送られ無事退院

くんちゃん（大分市）

初笑いパパママ笑い稚児笑い
稚児握る口を外して福笑い

あやか（豊後高田市）

家族みな笑顔と笑顔命守る
人生は笑顔で幸せ友は宝

小倉 英司（豊後大野市）

古稀過ぎてイケメン推し活笑う日々
苦笑いパークゴルフで打ち過ぎた

撫子（国東市）

今年こそ地球は一つ皆笑顔
入試終え含み笑いの孫帰宅

野上 明範（豊後高田市）

健康で笑顔で余生夢を追う
母ちゃんの笑顔で子ども良く育つ

照哉（日出町）

初笑い家族揃ったカルタ取り
泣き笑い人生幾多峠越え

梨木 静代（中津市）

優勝旗にかけてチーム高笑い
御笑^{ごしょうのう}納下されと訪^とう上司宅

西村 敦子（国東市）

所願あり妻に内緒でほくそ笑む
侵攻で笑う者無し天罰ぞ

後藤 喜重（由布市）

笑顔消え去年作ったマイナンバー
町内会結論出てるが笑顔無く

端鳥（国東市）

笑顔忘れ涙も枯れたガザの少女
福笑い車座こわして初笑い

三重野 碧（臼杵市）

大声で笑いの神に鬼よらず
笑おうねまだひやくといえるまで

かぼすじい（大分市）

喉ちんこ見ゆるほど開け大笑い
漫才の笑いも^{しほ}洞む大地震

安達 郁雄（国東市）

じいとばばスマホの孫に大笑い
長生きは笑いで包む家族愛

吉武 功（中津市）

堅物も笑い上戸の友を持つ
鬼笑う病氣しながら買う種を

西畑 春子（中津市）

飢えやいじめなくして子等の笑み守る
遺影では何を聞いても笑い顔

春夏秋子（豊後大野市）



笑おうよ余生もいつか枯れるから
温い風君が笑っただけなのに

大塚 洋子（大分市）

ありがとう君の笑顔に湧く気力
失敗を笑い飛ばして今がある

高司 真理子（佐伯市）

破れより手を振る孫を叱りかね
千両も万両もここ庭にはある

房前 和加子（大分市）

笑み上手忘れ上手で老い上手
湯の宿に手持ち無沙汰の妻おかし

長畑 孝典（大分市）

作り笑顔じいじが怖いと孫が泣く
女子会は噂話でみな笑顔

江口 俊（杵築市）

戦慄の能登に笑いが戻る日を
ぎくしゃくを笑いが溶かすわっは

道明（大分市）



笑い声弾む夕餉の至福時

思ひ切り泣けと遺影も笑つてゐる

内藤 幸一郎 (由布市)

いつまでも歩いていたいとスクワット
草刈機まだまだ若いとシッパはる

深田 豊子 (豊後大野市)

仮設風呂浴びて一時笑みこぼる

炊き出しの味噌汁「久々」と笑う

三浦 初音 (大分市)

元氣かえ手書の文字に笑みうかぶ

日々くらし家族円満笑顔力

佐藤 鈴代 (日出町)

脳活に大口笑い笑いこけ

マスクとれ笑いジワにも惚れ直す

佐藤 逸男 (日出町)

通りハに年を重ねた笑顔

石ころに足がつかずき苦笑い

川原 江美 (竹田市)



インプラント歯抜解消ハッハッハッ

介助浴行きも帰りも笑みの爺

おむすびころりん (大分市)

仲良しの笑顔が集うティータイム

コロナ癒え笑顔で向かう趣味の会

いぶき (杵築市)

家中で一日一度ワッハッハ

少子化を笑い飛ばせと呱呱の声

末田 洋一 (豊後高田市)

災害に笑えぬ竜の年始め

笑いヨガ無理して笑い笑い出す

西田 三津子 (佐伯市)

大笑い集う皆の輪の内和

吾子の顔見ているだけで笑みうかぶ

原尻 美代子 (豊後大野市)

被災地にお願い雪よふらないで

新年の鏡ききながらすすするそば

野瀬 幸子 (豊後大野市)

笑い皺深く刻んだ好々爺

笑いじわやつぱりばあちゃんベッピンや

衛藤 栄一（豊後大野市）

風揚げや走る子等の笑顔かな

母百才子供孫皆笑顔かな

是永 初代（由布市）

その笑顔マスクの下に隠れてた

夫婦道玄孫の顔宝物

河野 一生（大分市）

野仏に新よだれかけ眼が笑う

断捨離で密かに笑う恋文を

れっこ（佐伯市）

次あなた笑顔のマイクデいの宴

遠い耳笑顔でごまかす生半可

桑原 繁夫（由布市）

米寿のひ孫は天に高笑

定年日耐えた苦労の泣き笑い

橋本 政臣（中津市）

笑い皺中に私の一行詩

合格の笑顔が跳ねる孫の春

大野 浜子（臼杵市）

風呂の中元氣いつばい高笑い

趣味に明け元氣ハツラツ高笑い

後藤 恭徳（大分市）

曾孫らが安来節まね大笑い

猿のまね顔までそっくり大笑い

溝口 ヨシ（別府市）

貧乏神を叱り飛ばして大笑い

悲しいと笑う癖出て怪しまれ

金丸 土竜（佐伯市）

ロボットも笑い泣きます近未来

いつも笑顔涙はそつと拭いている

重吉 喜一郎（国東市）

モナリザは何見て微笑謎だなあ

薬より効果あるかも笑い講

佐々野 一恵（国東市）



四世代笑って過す毎日だ

幼子と笑ってケンカ爺と婆

林田 淑子（杵築市）

赤ちゃんの無垢なる笑い癒される

ハイチース口角上げてポーズ取る

吉田 勝徳（臼杵市）

百歳の笑顔の中にいる仏

定年なき職場感謝と笑顔の日

遠藤 隆久（別府市）

一日を笑って過ごし明日を待つ

山や谷秘めていつもの笑いジワ

敦厚（別府市）

どん底だ妻の笑顔で安堵する

悔しいが笑って褒める王手飛車

中野 裕治（大分市）

笑み作り鏡に向かい湧く気力

新年を祝う笑いを消すニュース

矢野 美佐江（佐伯市）

幸せの証のような笑い皺

食卓は爆笑の渦三世代

母子草（宇佐市）

寒くても今日耐えてこそ春笑う

逆風も顔で笑って時を待つ

中村 洋子（豊後大野市）

あやか
肖りたい十七番とあの笑顔

大災害一瞬にして笑顔消え

吉峯 陸子（中津市）

乳のみ子は何を夢見るうぶ笑い

拉致家族腹から笑う日はいつか

👑 北山 爲友（臼杵市）

奨励賞（男性最高齢者・一〇二歳）

オオタニサンドジャーブルでホームラン

初打ちで思わず笑顔のナイスイン

康之（大分市）

おもいきり笑えばやる気湧いてきた

団欒に笑いの神が降りてくる

井上 正彦（中津市）



笑みを受け笑みを返して地区に生く
探し物遺影の夫がまた笑う

安倍 雄代（大分市）

満天星月も光々笑ってる

服新調鏡の中のニヤケ顔

武吉 慶子（中津市）

梅の下猫も笑顔の日向ぼっこ

ラケット振るマスクが笑う体育館

桜井 勝己（竹田市）

笑いしわ増えても楽し喜寿の会

子ら帰省笑顔いっぱい鍋囲む

堀 富士子（竹田市）

四年振り孫に囲まれ大笑い

掛けた分取り戻すまでと高笑い

生野 益明（大分市）

合格を祈り笑顔を待っている

満面の笑顔は僕の太陽だ

徳久 ふみお（杵築市）

無事過ぎし笑いで締めたい今年こそ
外国で日の丸仰ぎ笑みうかぶ

大塩 政道（別府市）

古き良き昭和の笑い今いづこ

格下に不覚を喫つし苦笑い

油布 まち子（竹田市）

よく来たと遺影の姉が笑ってる

すぐばれるゴルフの前日よく笑ふ

中村 宏枝（中津市）

笑おうよボケも治るしシワも減る

高笑い入歯が飛んだお爺ちゃん

邦 弘（別府市）

地獄耳難聴なのに腹をたて

ドライブよ車で病院行き戻り

高野 淑子（別府市）

春光に野に生ふ花の笑みて咲く

わになって笑顔で歌うクラブの日

工藤 昌子（臼杵市）

山笑う釣られて笑う古い二人
目が合えば微笑み返す妻が居る

宗 百合子（豊後高田市）



笑いたいでも笑えない年初め
幼な児の邪気なき笑顔消えぬ世に

立花 節子（日田市）



反抗期終わつたらしい子が笑う
団欒の窓にはりつく笑い声

若杉 幹夫（大分市）

薬店に笑い薬を訊ねけり
鏡見て作り笑えば齒脱け爺

芦刈 成雄（佐伯市）

マスクでも笑う面は良く判る
年明けに笑えぬテレビ能登地震

松田 君子（大分市）

日溜りに集う老女の笑い声
きつとくる笑い一語の年の暮

三重野 美奈子（杵築市）

家中に孫の笑顔に花が咲く
大笑い聞いてた婆も大笑い

春 うらら（大分市）

週一に笑顔持ち込むひ孫たち
日暮れ早や笑い残してバイバイと

栗林 典子（杵築市）

バーベキュー笑顔でかへす春の庭
笑い合い友も同じだ物忘れ

財前 春子（杵築市）

つまづいて後で気がつきにが笑い
初孫がしりもちついて大笑い

松川 眞代（杵築市）

普通でも一番人気笑顔の子
おならして笑いを誘う赤ん坊

首藤 加代（大分市）

身内寄り子達女装し大笑い
挨拶で笑い始める仲の良さ

大野 きみ子（大分市）



笑い合うシワの奥には闘志あり

明日の日を夢に描いて苦笑い

薄田 ミキ (大分市)

みどり児の拳開いて初笑い

親の悪事見逃した子が笑われる

手嶋 欣一 (国東市)

初詣孫の案内笑顔吉

我がホーム笑顔が走る曾孫連

大津 信一 (竹田市)

間違へて言訳利かない泣笑い

一年を笑って暮そう老の日日

甲斐 清士 (竹田市)

姉白寿まだまだだと高笑い

古女房笑顔が俺の命綱

久富 豊治 (大分市)

隣家の猫立ち止まり目くばせす

隣家の猫の笑うや目くばせす

吉原 美津子 (豊後高田市)

古里の空家守るは野水仙

落葉たき中からほっこり甘太君

みずえ (佐伯市)

お手玉の中に福たてゲームする

福たおれ拍手と笑顔デイゲーム

穴井 隼己 (日田市)

猫が来てにぎやかになり笑顔見る

挨拶はマスクごしにて笑顔する

穴井 昭宏 (日田市)

百才のばあちゃんいつも笑顔見る

耳とおく手を握るだけ初笑

穴井 政枝 (日田市)

落ちこむな気づけば笑うはここかしこ

あざ笑うコロナは三四五の次七

工藤 正徳 (日田市)

大海を朱に染め初日孫笑う

運命を変えてごらんと母笑う

安部 哲雄 (大分市)

我もゆく笑顔の君に会える日は

窓ごしの子らの笑いについひかれ

牛王 トシコ (日田市)

古池やおれも飛び込む頭から

やれ打つな俺の頭は禿げちゃびん

松尾 一茶 (由布市)

移動中ズボンが脱げててれわらい

おばちゃん (由布市)

年始めマスクでかくすわらいじわ

ユリ (由布市)

パネル越し笑顔満開面会日

ニユーシニア (中津市)

今年こそ笑える日々をワッハッハ

A・W (日田市)

今年こんねんも阪神アレでしょう

I・S (日田市)

腕相撲妻と戦い腰砕け

つるさん (日田市)

初競りのブリ一億円は口腫れる

T・Y (日田市)

いつまでもお金が欲しいお年玉

S・T (日田市)

友からの贈り物メチャ感動

K・H (日田市)

バイタルチェック今日は誰かな看護師さん

ヒロキチ (日田市)

還暦がなにハーフサイズ私には

M・N (日田市)

窓ガラス絵を書くはずが窓はなし

彦ちゃん (日田市)

同室のご縁に感謝その笑顔

👑 後藤 俊美 (竹田市)

奨励賞 (女性最高齢者・九十六歳)

※





開運の福ろうみては笑みこぼれ

つわぶき花（津久見市）

そこら中元氣ふりまく笑いヨガ

岩尾 昭市（日出町）

俳句より徘徊樂しむお年頃

しゅんちゃん（日田市）

老人とわずらい知るおろか者

野田 勝則（日田市）

おばあちゃん笑顔の先はおじいちゃん

野田 由美子（日田市）

もの忘れくやしがつてもまたわすれ

藤川 マスヨ（臼杵市）

孫笑う一生孫の手いつかの子想い出

福の神妻の笑顔で子だくさん

矢野 基行（国東市）

いつかの君未来と過去今がよしの夫

矢野 福美（国東市）

八十路中オレンジカフエで友が増え
生真面目と云う要領の悪さかな

鏡 澄子（臼杵市）

喜寿の春シワの深みに人生有り
老いてゆく幼児にかえる動作なり

大神 愛子（豊後大野市）

卓球かピンポンなのか笑う声
失敗を笑ってますます悪いくせ

尾方 ナツ子（日出町）

川柳を学びましょう

二百五十余名参加の川柳大会。五七五のルールを無視した

句の多さに驚きを感じます。川柳は五七五のルールを守ってこそ

川柳です。

そこで大分県番傘川柳連合会として、毎年十月から十二月にかけて三回、無料で「川柳教室」を開催し、レベルの向上に努めていきたいと考えています。詳細は後日ご案内申し上げますが、個別に「川柳教室」の希望があれば連絡ください。県内どこでも出掛けて行きます。ご連絡を。



大分県番傘川柳連合会 高木 豊柳

「大分県番傘川柳連合会の紹介」

《会長 坂本一光》

1. 目的

本会は昭和43年に設立。県内12川柳会と3川柳教室を統轄し、番傘川柳本社に所属する。川柳の基本「穿ち」「軽味」「ユーモア」の三要素をもって人間諷詠を17音字に表現する会員の育成に努める。

2. 主な活動

- ・毎月機関誌「川柳高崎山」を発行する。
- ・毎年10月に大分県民芸術文化祭ジャンル別行事として川柳大会を開催。本年度は誌上から通常大会へ移行予定。

3. 会費

- ・月刊高崎山の誌代として月700円

4. 希望による本社同人への道もあります。

5. 自分を思いっきり表現する川柳を一緒に楽しみませんか。 人生が変わるかも知れません。連絡お待ちしております。

連絡先 〒879-7306

豊後大野市犬飼町下津尾3396-1 高木豊柳

TEL 090-1166-3160

第35回豊の国ねりんピック

シルバーふれあい短歌・俳句・川柳展 作品応募状況

		第35回 (令和6年度)
募集期間		1/1～1/31
開催期間		5/16～5/21
短歌	応募者数(人)	297
	作品数(点)	297
俳句	応募者数(人)	410
	作品数(点)	754
川柳	応募者数(人)	242
	作品数(点)	462
合計	応募者数(人)	949
	作品数(点)	1,513

参考(過去3年の状況)		
第34回 (令和5年度)	第33回 (令和4年度)	第32回 (令和3年度)
1/1～1/31	1/1～1/31	1/1～1/31
5/16～5/21	5/17～5/22	5/18～5/23
281	261	249
281	261	249
428	417	390
781	764	723
259	243	218
515	476	433
968	921	857
1,577	1,501	1,405

〔複数部門への応募者数〕

短歌と俳句 …………… 21人
 短歌と川柳 …………… 24人
 俳句と川柳 …………… 22人
 短歌と俳句と川柳 …………… 54人

応募者数（男女別・市町村別・年齢階層別）

	短 歌	俳 句	川 柳
男	81	111	120
女	216	299	122
大 分 市	65	170	41
別 府 市	16	13	13
中 津 市	18	13	20
日 田 市	23	30	28
佐 伯 市	42	15	14
臼 杵 市	20	18	13
津 久 見 市	8	19	8
竹 田 市	18	9	10
豊後高田市	7	16	6
杵 築 市	14	14	11
宇 佐 市	9	25	9
豊後大野市	14	14	23
由 布 市	10	23	9
国 東 市	19	18	28
姫 島 村	0	0	0
日 出 町	8	9	7
九 重 町	0	0	0
玖 珠 町	6	4	2
～65歳	11	7	8
66～70歳	18	27	29
71～75歳	45	59	33
76～80歳	66	83	59
81～85歳	62	101	63
86～90歳	48	73	22
91～95歳	35	46	23
96～100歳	9	10	4
101歳～	3	3	1
不 明	0	1	0
応募者数合計	297	410	242

※年齢は、令和7年4月1日現在

※応募資格：令和7年4月1日時点で満60歳以上の方

整理番号		短歌は1首のみ
------	--	---------

③氏名 (フルネーム)		郵便番号 ② —	①応募作品 必要に応じて ふりがなをつけて下さい。		
		住所	①		
④性別 男・女					
⑤筆名 (あれば)					
⑥電話番号 — —					
⑦生年月日 明治・大正・昭和 年 月 日生 歳		⑧年齢			
⑨所属団体(歌会)					

【短歌】

きりとり

短歌

部門

次回応募用紙

楷書ではっきりとお書きください

きりとり

一人の出品数は短歌 1 首とします。

点線から切り取って、ご応募下さい。

次回も募集期間は、令和7年 1 月 1 日から 1 月 31 日までです。

あて先：〒870-0907 大分市大津町 2-1-41 大分県社会福祉協議会
市民活動支援部 シルバーふれあい短歌・俳句・川柳展係 です。

〒 870-0907

大分市大津町2-1-41

大分県社会福祉協議会 市民活動支援部

シルバーふれあい短歌係

お手数ですが
切手をお貼り
ください

応募はがき

※1月1日～1月31日の消印のみ有効

きりとり

きりとり

※募集期間外の応募は無効となります。
ご注意ください。

整理番号			俳句 (2句まで)
------	--	--	-----------

③ 氏 名 (フルネーム)		〒 郵便番号	①応募作品 必要に応じて ふりがなをつけて下さい。		
ふりがな	②	—	2	ふりがな	1
	住 所				
④ 性 別 男・女		⑤ 俳 号 (あれば)	ふりがな		ふりがな
⑤ 俳 号					
—					
⑥ 電 話 番 号		—			
⑦ 生 年 月 日		⑧ 年 齢			
明治・大正・昭和					
年 月 日生		歳			
⑨ 所 属 団 体 (句会)					

【俳句】

きりとり

俳句

部門

次回応募用紙

楷書ではっきりとお書きください

きりとり

一人の出品数は俳句2句以内とします。

点線から切り取って、ご応募下さい。

次回も募集期間は、令和7年1月1日から1月31日までです。

あて先：〒870-0907 大分市大津町2-1-41 大分県社会福祉協議会
市民活動支援部 シルバーふれあい短歌・俳句・川柳展係 です。

〒 870-0907

大分市大津町2-1-41

大分県社会福祉協議会 市民活動支援部

シルバーふれあい俳句係

お手数ですが
切手をお貼り
ください

応募はがき

※1月1日～1月31日の消印のみ有効

きりとり

きりとり

※募集期間外の応募は無効となります。
ご注意ください。

整理番号			川柳(2句まで)
------	--	--	----------

③氏名 (フルネーム)		郵便番号 ②	①応募作品 必要に応じて ふりがなをつけて下さい。		
ふりがな		住所	2	ふりがな	1
④性別 男・女					
⑤柳号 (あれば)		ふりがな			
⑥電話番号					
— —					
⑦生年月日		⑧年齢			
明治・大正・昭和					
年 月 日生		歳			
⑨所属団体(句会)					

【川柳】

きりとり

川柳

部門

次回応募用紙

楷書ではっきりとお書きください

今回の川柳の課題は「くすり」です。

きりとり

一人の出品数は川柳2句以内とします。

点線から切り取って、ご応募下さい。

次回も募集期間は、令和7年1月1日から1月31日までです。

あて先：〒870-0907 大分市大津町2-1-41 大分県社会福祉協議会
市民活動支援部 シルバーふれあい短歌・俳句・川柳展係 です。

〒 870-0907

大分市大津町2-1-41

大分県社会福祉協議会 市民活動支援部

シルバーふれあい川柳係

お手数ですが
切手をお貼り
ください

応募はがき

※1月1日～1月31日の消印のみ有効

きりとり

きりとり

※募集期間外の応募は無効となります。
ご注意ください。

大会事務局

社会福祉法人大分県社会福祉協議会

市民活動支援部 長寿いきいき班

〒870-0907

大分市大津町2丁目1番41号 大分県総合社会福祉会館内

TEL (097) 553-1150 FAX (097) 553-1160

ホームページ <https://www.oitakensyakyō.jp/ikiiki>